令　和　７　年　第　３　回

教 育 委 員 会 定 例 会 教 育 長 報 告

令和７年３月２１日（金）

１	武蔵村山市教育大綱・第四次教育振興基本計画策定支援業務委託優先契約交渉事業者の決定について	資料１
２	令和６年度武蔵村山市立学校教員研修「輝きアップ研修」受講申請等一覧について	資料２
３	令和６年度教員の研究・研修活動について	資料３
４	令和６年度授業改善推進プランについて	資料４ （別冊）
５	令和６年度武蔵村山市立学校学校評価結果について	資料５
６	武蔵村山市立小学校特別支援学級開設準備委員会の検討結果について	資料６
７	その他	

資料１

武蔵村山市教育大綱・第四次教育振興基本計画策定支援業務委託優先契約交渉事業者

１　優先契約交渉事業者の名称、所在地及び代表者氏名

⑴　名　　称　　株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

⑵　所　在　地　　京都市右京区西京極西池田町９番地５西京極駅前ビル６階

⑶　代表者氏名　　藤原　壮督

２　契約の予定期間

令和７年４月１日（火）から令和９年３月３１日（水）まで

令和７年３月２１日
教　育　指　導　課

令和６年度武蔵村山市立学校教員研修「輝きアップ研修」受講申請等一覧

	学 校 名	申請者名	職　名	申請研修名	研 修 日	研修期間	研修場所
1	大南学園 第七小学校	杉本　千香子	栄養教諭	第１回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会	令和６年８月１日・２日	２日	ホクト文化ホール ＪＡ長野県ビル
2	第九小学校	財津　理恵	主任教諭	夏の音楽指導セミナー２０２４	令和６年８月７日・８日	２日	全電通労働会館
3	第十小学校	今井　一馬	校　　長	山形県天童市立天童中部小学校　公開研究会	令和６年１０月９日	１日	山形県天童市立 天童中部小学校
4	第三小学校	阿南　晃介	主幹教諭	第 33 回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会	令和６年１１月７日・８日	２日	盛岡市民文化ホール 盛岡市立本宮小学校
5	村山学園 中学部	渡邊　　光	教　　諭	令和６年度　新潟大学附属新潟中学校教育研究発表会	令和６年１０月２５日	１日	新潟大学附属 新潟中学校
6				全国数学教育学会　第６１回研究発表会	令和６年１２月１４日 ・１５日	２日	関東学院大学 金沢八景キャンパス
7	第三中学校	宮田　聖一 平瀬　智章 櫻井　　優	副 校 長 主任教諭 教　　諭	広島県教育支援センター「SCHOOL“S”」視察及び広島県立教育センターにおける先進的事例（「個別最適な学び」）研修	令和７年２月２８日	１日	広島県教育支援センター 広島県立教育センター

資料２

令和７年３月２１日
教　育　指　導　課

令和６年度　教員の研究・研修活動について

研究事業		所属校	職名	氏名	教科等	研究テーマ等
研究開発委員		第三中学校	教　諭	桜井　優	教育課題（不登校）	不登校生徒一人一人の状況に応じた学びの実現～チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）の取組～
教育研究員		第一小学校	主任教諭	久保田　晃司	特別活動	自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとする児童の育成～個人のめあての共有や振り返りの価値付けを通して～
		第二小学校	主任教諭	池田　康人	体　育	表現運動系領域での個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実　～習得・活用・探究の学習過程と指導の工夫～
		第一中学校	主任教諭	矢部　峻隆	国　語	根拠を明確にして考える力を育成する「読むこと」の指導の工夫
東京教師道場	リーダー	第三小学校	教　諭	小林　稜典	国　語	児童の「やってみたい」「分かった・できた」「生かしたい」を引き出す指導計画の工夫
	２年次	第八小学校	教　諭	佐々木　佑	特別支援教育	・個別最適な学びを実現させる指導の在り方 ・児童が主体的に学びに向かうための指導の在り方
		第十小学校	教　諭	髙木　駿平	体　育	なりたい自分に向かって、児童が主体的・協働的に学びを深めていく体育学習
		第三中学校	教　諭	須崎　亮	数　学	効果的な発問により、授業で必要な生徒の言葉を引き出し、生徒が学びを深める指導の工夫
	１年次	第二小学校	教　諭	村田　望亜	体　育	できたや楽しさが味わえる体育学習
		第八小学校	教　諭	西澤　幸男	算　数	学びたい、学び合う、学びを広げる算数　～数学的な見方・考え方を育てる手だて～
		第十小学校	教　諭	泉　裕樹	道　徳	児童が自分事として考えられる道徳科授業
		雷塚小学校	教　諭	辻村　量子	図画工作	児童が思わず動き出す授業を目指して　～思いを深めるための導入の工夫～
		村山学園小学部	教　諭	小林　愛子	社　会	主体的に問いを追究し、学んだことを生活や社会につなげようとする児童の育成
		大南学園第四中	教　諭	岸　賢司朗	数　学	生徒が学習に主体的に取り組み、問題を解決していく指導の実践

資料３

資料４
（別冊）

令和6年度
武蔵村山市立学校
授業改善推進プラン

令　和　７　年　３　月　２　１　日
武　蔵　村　山　市　教　育　委　員　会

― 目次 ―

1　第一小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　第二小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
3　第三小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
4　第八小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5　第九小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
6　第十小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
7　雷塚小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
8　村 山 学 園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
9　大南学園第七小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
10　大南学園第四中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
11　第一中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
12　第三中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
13　第五中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

令和6年度 武蔵村山市立第一小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字や基本的な語彙、文章の構成など日常生活に必要な国語の知識や技能を身につける。	**自分の考えや思いを的確に話したり、書いたりする力を養う。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア学習した漢字を文の中で使用することができにくく、語彙も豊かではない。 イ分かりやすく自分の考えを話したり、読み手を意識して書いたりすることができにくい。	ア大単元のはじめに辞書を用いて難語句の意味調べをすることで語彙を増やしたり、言葉の正しい使い方を知ったり「させている。 イ発表するときや書くときに理由や例を添えて伝えるためのパターンを提示している。	ア市学力調査【知識・技能】 60.8%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 54.0%（平均正答率） 所見 知識はついているが表現が課題
第5学年	ア漢字の書き取りを苦手としている児童が多く見られる。 イ文章問題で問題文を確実に読み取ることができない児童が多い。	ア授業の最初に小テストや確認の時間をとる。自分自身がどの漢字が苦手なのかを分かっていない児童が多いため、ポイントや、つまずきやすい箇所を全体で共有していく。 イ問題文を読むときのポイントや、着目すべき言葉を一緒に確認していく。時間をとって問題文を読ませていく。	ア市学力調査【知識・技能】 121.7%（同一学習集団前年度比） イ市学力調査【思考・判断・表現】 136.7%（同一学習集団前年度比） 所見 表現力が身に付いてきた。
第6学年	ア主語と述語、話し言葉と書き言葉が理解できていない児童が見られる。 イ論理的で具体的な文章を書くことが苦手な児童がいる。	アいろんな例文で確認する。プリント学習等で、言葉の学習を繰り返し行い、事前事後の指導を充実させる。 イ相手意識を明確にして書くことを習慣付けさせる。良い文章を読んだり試写したりすることで、文章の構成や表現を習得させる。	所見 相手を意識した文章を書こうとする姿が見られるようになってきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：文書作成ソフトを活用し、下書きを作成することで推敲や構成の変更をしやすくしたり、学習支援ソフトを活用し、考えを共有したりする。 5年：自分の意見を伝えるときに、どのような伝え方をしているか確認するために、タブレットで撮影し、振り返りができるようにする。 6年：二次元コードを活用して、自分で手本となる動画を視聴できるようにする。班活動では、プレゼンテーション作成ソフトを活用し考えをまとめさせる。	4年：ねらいに沿った学習の振り返り・次時につながる振り返り・授業の中では出なかった読み取り等を紹介しながら学習を進めている。 5年：学習する単元のゴールを児童に伝えて、見通しをもたせる。自分の考えを表現する機会を増やす。 6年：学習のめあてや流れを視覚化し、見通しをもたせる。PDCA サイクルで学習を進め、学習を調整する力や粘り強く取り組む習慣を身に付けさせる。

令和6年度 武蔵村山市立第一小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
正確に計算したり、図形に表したりするなど、日常の事象を数理的に処理する技能を身につけるようにする。	**日常の事象を数理的に捉え、式に表したり、表やグラフに表したりする力を養う。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 計算力はあるが、桁の大きい数や小数のしくみが理解できていない児童が見られる。 イ 問題文を読んでも、立式できない児童が見られる。	ア 大きい数については4桁ずつ補助線を入れて読むようにすること、小数については小数点を確認させること等をとおして位を意識して課題に取組ませるようにする。 イ 演算決定の際にカギとなるキーワードを図などと連携させて確認して、課題に取組ませるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 58.2%（平均正答率） イ 市学力調査【思考・判断・表現】 54.0%（平均正答率） 所見 発表力が課題である。
第5学年	ア 2けたでわるわり算の筆算が習熟できていない児童が見られる。 イ 除法の立式において、わられる数とわる数を決められず、立式できない児童が多い。	ア 繰り下がりのあるひき算や1桁×1桁の100マス計算を随時行い、簡単な計算のスピードを高めることで、自信をもって計算できるようにさせる。 イ 文章題を解く際には、数直線を書かせ、それを活用して、正しく立式できるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 109%（同一学習集団前年度比） イ 市学力調査【思考・判断・表現】 136.9%（同一学習集団前年度比） 所見 活用する力がついてきた。
第6学年	ア 基礎的な加減乗除は比較的できるが約分が苦手な児童が多い。 イ 立式はできるが、求めた答えの単位を間違える児童が多くみられる。	ア 計算後に振り返りをさせ、その答えでいいかどうかもう一度確認させるようにする。 イ 分かっていることは何か、求めたいことは何かを整理してから、問題に取り組ませ、立式するように指導する。	所見 単位に気を付けて回答する姿が見られるようになってきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめを大型提示装置に提示する。児童用教科書の二次元コードを活用して、まとめの課題に取り組ませる。 5年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめを大型提示装置に提示する。児童用教科書の二次元コードを活用して、作図の課題に取り組ませる。 6年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめを大型提示装置に提示する。児童用教科書の二次元コードを活用して、表やグラフの作成に取り組ませる。	4年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保し、自分の言葉で振り返りを記入する時間を確保する。 5年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保するとともに、多面的に自分の考えを表現する機会を増やす。 6年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保するとともに友達の考えから学び合う機会を増やす。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校（　杉の子学級　）

目指す授業	みんなで創る「誰一人取り残さない学校」を実現するため ○ 一人一人の特性に合わせためあてを設定し、適切な評価と支援を行う授業。 ○ 小さな「わかった」の積み重ねにより、成長を実感できる授業。 ○ 児童に主体的に考えさせ、自らの考えを表現する力を高める授業。

教科	①　児童の実態・課題	②　授業改善の取組	③　取組結果
国語	・低学年、中学年は、「聞く」活動について、力が定着しにくい。 ・「読む」「書く」活動について、発達段階の差が大きい。	・聞くために指導者や発表者に注目させる、目を話し手に向けるなどの指導を、杉の子学級担任が共通理解し、低学年から積み重ねていくようにする。 ・同じ教材を使った一斉授業では、個別のワークシートを工夫し、興味をもって取り組めるようにしていく。「書く」学習については、個別指導の時間を充実させる。	・よく聞けている児童、目線を合わせている児童を具体的に褒めることで、聞こうとする態度に気を付けられるようになった。 ・物語や説明文の教材を使っての授業では、ワークシートの質問に答えるために本文から読み取ることを繰り返し行った。作文や日記を書くときには個別で少しずつ内容をふくらませて書けるように指導した。
算数	・学年内でも個々の学力差が大きい。 ・数の概念やかけ算、わり算等の理解が難しい。 ・理解の定着に時間がかかる。	・習熟別グループでの学習を行う。（３～６年） ・具体物や半具体物の操作を取り入れ、活動を通して意味理解をさせながら四則計算の理解につなげる。 ・スモールステップで取り組む。前段階の学習内容を確認しながら理解定着につなげる。	・３～６年はグループでの学習にしたことで、同じ進度の児童同士で教え合う姿が見られるようになった。学び合うことで算数の学習に対して意欲がもてるようになった。 ・休みがあると計算の仕方を忘れてしまうこともあるので、復習を重ねながら次の段階へ進むようにしている。低学年の児童はキャラクターの物語を交えながら、楽しく学習できている。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校（　さくら学級　）

目指す授業	○個々の課題に応じた、自立活動を行う。 ○児童の実態に応じた教材を活用する。 ○家庭と共通理解し、連携して指導することで児童の学力の定着を図る。

教科	①　児童の実態・課題	②　授業改善の取組	③　取組結果
国語	・ひらがな、カタカナが定着しておらず、正しく書くことが難しい、苦手意識をもっている児童がいる。 ・各学年に配当されている漢字の学習ができていない。	・個別の学習を徹底し、できていないところを繰り返し指導する。日記や作文等を書くことで文字を書き活用する機会を意図的に作る。 ・個別の実態に応じて、書くことより、読むことを重視し、学年に応じた漢字学習を行う。 ・漢字辞典や配当漢字表を活用し、定着を図る。 ・音読をしたり、読書をしたりする機会を増やす。	・個別指導を徹底したことで、書くことができるようになってきている。 ・文字への抵抗があるため、一人１端末の効果的な活用についても検討する必要がある。 ・漢字は、書くことは難しくても読むことはできるようになってきた。
算数	・基礎的な計算ができない児童が多い。（繰り上がり、繰り下がり、九九） ・文章問題に苦手意識がある児童が多い。	・授業中や自立活動の時間に計算問題に取り組む機会を設ける。 ・一人１台端末を活用し、自己の課題に合った問題の習熟を図る。 ・一緒に問題文読みながら必要なところにチェックをつけ、考える際の手助けになるようにする。	・知識・技能は、習得することができる児童が増えた。 ・一人１台端末を活用したことで、演習の量が増え、理解につながった。 ・人数が少ない、コミュニケーションを苦手としている実態があるため、協働的な学びの実現が難しく、思考力を高めることに課題がある。

令和6年度 武蔵村山市立第二小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	**筋道立てて考える力や豊かに感じたり、想像したりする力を養う。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア漢字の練習には取り組んでいるが、漢字の部首や意味まで理解していない。 イ友達の話を聞くときに、メモ等を取らずにそのまま聞いている。	ア漢字スキルを使って部首や意味なども理解し、文や文章の中でも使えるようにする。 イ「聞き取りメモの工夫」などの学習を振り返り、メモを取る習慣を付ける。	ア市学力調査【知識・技能】 42.9%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 38.8%（平均正答率） 所見：3学年に既習した漢字を正しく書けておらず、さらに日常的に漢字を活用させる必要がある。
第5学年	ア新出漢字や既習の漢字を使って文章を書く際、適切に使えていない。 イ物語や説明文を読み、本文の言葉から登場人物の心情や文章の要点を読み取ることに課題がある。	ア漢字スキルの練習だけでなく、文章を書くときに、漢字を使って書くことを意識させる。 イ場面分けや段落分けの際に根拠をもたせて読ませたり、主語と述語の関係や文同士の関係に着目させたりする。	ア市学力調査【知識・技能】 100%（同一学習集団前年度比） イ市学力調査【思考・判断・表現】 140%（同一学習集団前年度比） 所見：読み取ったことを文章に表すことに大きな課題がある。
第6学年	ア既習の漢字を使えていなかったり、自分が書いた文章を読み返すことが難しかったりする。 イ説明文の要旨や物語文の概要を読み取ることが難しい。	ア 1年生から6年生までの漢字に繰り返し取り組み、定着を図る。言葉遊びを行い、言葉に興味がもてるようにする。 イ音読を繰り返し行う。また文章から感じ取ったことを友達と共有して話し合う時間を設ける。	ア市学力調査【知識・技能】 イ市学力調査【思考・判断・表現】 所見：漢字を用いて文章を書くこと、文章の要旨や概要を読み取る力が伸びた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、各児童が取り組んだり、学び合いの活動に活用したりしている。 5年：「話す・聞く」の単元で友達に聞いたことや話し合ったことをまとめるときにプレゼンテーションソフトを用い、発表している。 6年： 要旨や感想をまとめる時に、文章作成ソフトを用いて書き、交流している。	4年：毎時間の授業でめあてを提示し、どのような学習をするのか見通しをもたせている。また、授業や単元の終盤に感想を書かせている。 5年：児童から出た気になったことや疑問点を取り上げ、児童がすすんで話し合いたいと思うようにめあてを設定する。 6年：単元の流れを児童に提示したり、振り返りの後に交流する場面を設けたりする。

令和6年度 武蔵村山市立第二小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解する。 ・日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、統合的・発展的に考察する力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア間違えた問題をそのままにしていて、十分に理解できてない。 イ立式や答えは出せるが、根拠となる図や表、グラフに表すことができていない。	ア間違えた問題をやり直す時間を確保する。練習問題に取り組ませる等、反復練習を重ねる。 イ日頃の授業から自分の考えを図や表、グラフ、言葉などで説明する習慣を付ける。	ア市学力調査【知識・技能】 42.4%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 39.8%（平均正答率） 所見：特に「垂直・平行と四角形」の学習の定着をはかるため、練習問題に取り組ませる必要がある。
第5学年	ア問題文の内容を理解し、既習事項から解決する見通しを自分でもつことができていない。 イ解決方法を言葉や式、数直線等で分かりやすく説明できないことが課題である。	ア問題文をよく読む時間を設け、場面を自分で想像できるようにする。既習事項とのつながりがないか、考えることを意識させる。 イ解決方法を発表する場面を設け、さまざまな考え方があることや共通点、相違点について考えられるように指導する。さらに自分に合った考え方やよりよい解決方法を選択できるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】 80%（同一学習集団前年度比） イ市学力調査【思考・判断・表現】 110%（同一学習集団前年度比） 所見：問題文の理解と、図形領域に課題がある。
第6学年	ア下学年の既習事項が定着していないため、新しい学習に活かすことができない。 イ立式したことを説明することができない。	ア既習事項のミニプリントを活用して、毎時間授業の始めに取り組む。 イ図や数直線などで自分の考えを説明する活動を行い、友達との学び合いの中で自力解決していけるようにする。	所見：基礎基本を定着させ、使えるようにすることが課題である。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、各児童が取り組んだり、学び合いの活動に活用したりしている。 5年：既習の計算方法を確実にするために、計算アプリで繰り返し取り組んでいる。児童の考えをタブレット端末で他の児童に配布し、共有している。 6年：ドリル学習に e ライブラリや計算アプリなどを活用し、自分の進度に合わせて学習する時間を設ける。	4年：毎時間の授業でめあてを提示し、どのような学習をするのか見通しをもたせている。また、授業や単元の終盤に感想を書かせている。 5年：その授業で学習することや解決する課題をめあてとして共有する。課題解決のために既習事項から考えさせて、解決の見通しをもたせている。 6年：単元ごとに振り返りの時間を設け、自分でレポートなどにまとめる活動を行う。

令和6年度 武蔵村山市立第三小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
語彙力や文章を構成する力を高める。	**文章の構成や内容を理解し、自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりする力を高める。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア授業やノート、日常会話の中で語彙が少なかったり熟語を使えなかったりする児童が多い。 イ文章を書くことに抵抗を感じる児童が多く、深く考える前に諦めてしまう傾向が強い。	ア導入時に児童のやる気を引き出す、ことわざや、四字熟語のクイズを設定する。 イ学校行事や他教科と結び付けて単元を構成し、文章を書くことが必然になるような課題を設定する。	ア市学力調査【知識・技能】 51.9%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 41.6%（平均正答率） 所見 手立ての見直しが必要。
第5学年	ア授業やノート、日常会話の中で語彙が少なかったり熟語を使ったりしている児童が少ない。 イ自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア既習事項の振り返りをしながら、テンポのよい授業で集中力を持続出来るようにする。 イグループ等の少人数で考えを述べる場面やタブレットで考えを共有する場面を作る。	ア市学力調査【知識・技能】 111%（同一学習集団前年度比） イ市学力調査【思考・判断・表現】 136%（同一学習集団前年度比） 所見 引き続き思考・判断・表現を伸ばす。
第6学年	ア文章を構成する力や語彙力が弱いため、『書く』単元において、教科書で求められている文章量に達することが出来ない。 イ読書量が少ないため、「読む」単元において文章全体の構成や内容を把握・理解する力や叙述から筆者の考えや登場人物の気持ち等を読み取る力が弱い。	ア教科書の文章より簡単なモデル文や型を提示し、スモールステップで学習を出来るようにする。 イワークシートを使用したり、授業の最初に黙読をする時間を取ったりすることで文章構成や内容を分かりやすくする。	所見 文章中の言語を丁寧に説明したり、文章を区切って考えさせたりすることで、理解を深めることができた。日頃から本を読む時間を設ける必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：導入時に行っている「ことわざクイズ」の問題を一人1台端末を使い、PowerPointに作成し、毎時間1つずつ出題している。 5年：全体交流では、教科書の本文をスクリーンに映し出し本文のどこを学習しているか分かりやすく提示する。Teams で資料の提示や児童のノートの紹介、意見の交流などで活用している。 6年：「書く」や「話す・聞く」単元では、Word を使い、修正や推敲をしやすくしている。	4年：授業の終末には「振り返り」の時間を設定し、そこから出た児童の願いや思いを次の時間の課題に結び付けるようにしている。 5年：単元の流れをしっかりと確認するとともに、本時の流れを黒板に提示し見通しをもって学習に取り組めるようにする。合わせて、毎時間振り返りを行う。 6年：学習計画を児童と考えたり、委員会やクラブ活動、学校行事と学習を関連付けたりすることで学びの必然性をもたせている。

令和6年度 武蔵村山市立第三小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
式や計算の意味等を確実に理解できるようにする。	**言葉や式、図、表、グラフを用いて論理的に説明・記述できるようにする。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア九九や基本的な計算力が身に付いていない児童が多い。 イ算数で学習した言葉や公式を使って端的に説明できる児童は少ない。	ア eライブラリの活用によって児童自身が自分の課題を把握し、繰り返しドリルに取り組めるようにする。 イ既習事項の活用に目を向けさせ、解決方法の見通しをもたせる。	ア市学力調査【知識・技能】 47.8%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 44.3%（平均正答率） 所見 基礎基本の定着を図る手立てを再考する。
第5学年	ア基本的な四則計算の知識、技能が身に身に付いている児童は多いが、式の意味を理解している児童は少ない。 イ言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。問題文の読み取りに課題がある。	ア単元ごとに演習問題や復習問題に取り組む。東京ベーシックドリルの苦手な領域を抽出した問題に取り組む。 イ子ども同士の気付きや発見の機会をもつために、ペア学習やグループ学習等での伝え合いや高め合いの場を与える。	ア市学力調査【知識・技能】 91%（同一学習集団前年度比） イ市学力調査【思考・判断・表現】 104%（同一学習集団前年度比） 所見 基礎基本の徹底を図る必要がある。
第6学年	ア問題文の読み取りに課題がある児童が多く、計算に苦手意識をもっている傾向ある。 イ自分の考えをノートに書くことに抵抗は少なく、しっかり思考することができる。	ア前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容を関連付けさせて捉えさせる。 イ個人の考えをもった上で、グループや全体でお互いの考えを表現する活動を位置づける。	所見 授業の導入で、単元内容に関わる復習事項を確認することで、スムーズに学習に取りかかることができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末や電子黒板などを活用することで、自他の考えの視覚化や共有化を図る。 5年： 学習支援ソフトの活用により、問題解決の方法をまとめたり、他者へ説明したりすることができる。 6年：ワークシートや思考ツールを活用し、自分の考えをまとめたり、複数の考えを比較したりすることで、よりより方法を見出すことができる。	4年：前時の学習を振り返らせたり、生活場面に関連のあるもの、興味・関心を高めるもの等を提示したりする。 5年：学習の振り返りをもとに、次時の課題を設定したり、単元の見通しをもたせたりする。 6年：授業の中で児童が見出した新たな問いを共有し、単元の学習の見通しをもたせる。

令和6年度 武蔵村山市立第八小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	**考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えをもつことなどができるようにする。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア漢字の定着が不十分である。 イ語彙の獲得が不十分であることで、自分の思いや考えを伝えるときの表現力が弱い。	ア学習の始めの5分間など短い時間での繰り返しての復習を行う。 イ意味や用法を学んだ言葉を実際に使用し、相手に自分の考えを伝える場面で話型を示しながら発表させる。	ア市学力調査【知識・技能】 53.2%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 46.1%（平均正答率） 所見：漢字を読む力が向上した。
第5学年	ア新出漢字を覚えることが苦手な児童が多く、漢字を活用して文を書くことが苦手である。 イ相手意識をもって自分の考えを相手に伝えたり、相手が話していることを捉えて聞いたりすることが苦手である。	ア宿題でのドリル学習や自主学習による練習に取り組ませる。また、漢字ミニテストを随時行い、定着を図る。 イ授業中に考えを交流する時間を意図的・計画的に設定するとともに、自分の考えに訳を添えて話す習慣を身に付けさせる。	ア市学力調査【知識・技能】 57.7%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 54.5%（平均正答率） 所見：話す聞く力が向上した。
第6学年	ア文法の理解や漢字の習得に課題があり、慣れ親しんで言語を活用することが難しい。 イ読解力が低く、自分の考えをもち、表現することに課題がある。	ア漢字小テストを活用し、繰り返し習得に向けて練習させる。 イ叙述をもとに、情報と情報を関連付けて読み取れるようにする。辞書や読書活動を活用して語彙を増やすなどして、表現方法を身に付けさせる。	ア単元別到達度【知識・技能】 33% イ単元別到達度【思考・判断・表現】 53% 所見：学ぶ姿勢が身についてきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：言葉の意味や使い方を、ウェブ上の国語辞典などを活用しながら短時間で調べたり、共有したりしやすくする。 5年：e ライブラリを活用して、習熟を図るとともに、発表ノートを活用して考えたことを共有する場面をつくる。 6年：グループで活動する際、グループ内のメンバーが同時に編集できるサイトを活用することで、グループ内で役割を決め、話し合いながら編集し、個人でまとめる。提出期日を決め、隙間時間を活用しながら、取り組む。	4年：児童自らが問いをもちやすいよう、単元の導入で関連する動画や実物を見せるなどし、興味をもって学びに向かえるようにする。 5年：「めあての提示」を徹底することと、協働的に学ぶ場面を多く設定することで、学びに向かう力を涵養する。 6年：単元の初めに学習計画を立てたり、全体の流れを振り返ってからまとめたりすることで、児童の学ぶ意欲を高める取り組みをする。

令和6年度 武蔵村山市立第八小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに，日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。	**日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力を身に付ける。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア基礎基本の定着が不十分で、計算の正確性に欠ける児童が多い。 イ問題から場面を想像し、図や式に表すことに課題を感じる児童が多い。	ア習熟タイムなどを活用し、繰り返し練習をする。また期末テストを見据え、計画的に学習を振り返る時間を設定する。 イ児童が自分の意見を話しやすい環境を整え、様々な考え方や表現に触れることで、場面を想像しやすくし図や式へと表すためのヒントを数多く引き出す。	ア市学力調査【知識・技能】 58.0%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 48.3%（平均正答率） 所見：データ活用能力が向上した。
第5学年	ア整数の計算ができても、小数の計算になるとうまく計算ができない児童が多い。 イ演算決定の際に、除法なのか、乗法なのか、文章を読んで判断することが困難な児童が多い。	ア １時間の学習の中で、出会う時間、自力解決の時間、共有確認の時間、適応問題に取り組む時間と、明確に分け、既習事項を活用すれば新出事項を解決することができるという経験を繰り返し積ませる。 イ授業の中で演算決定をする場面では、図を描いたり読んだりする場面を意識的に設定し、理解を深めることをねらう。	ア市学力調査【知識・技能】 51.8%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 40.8%（平均正答率） 所見：活用する能力が向上した。
第6学年	ア既習事項が身に付いておらず、基礎的・基本的な概念や性質を理解できていない児童が多い。 イ問題から式や図に表す力が低く、見通しをもって学習に取り組めていない児童が多い。	ア習熟タイム（東京ベーシック・ドリル）を活用し、繰り返し練習させる。また、既習を想起させながら授業を行う。 イ問題場面が式や図と関連付けられているかを確認し、児童の実態に応じて既習事項を振り返る。	ア単元別到達度【知識・技能】 45% イ単元別到達度【思考・判断・表現】 27% 所見：徐々に力を付けてきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人１台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：e ライブラリで苦手なところを繰り返し学習し、定着を目指す。 5年：e ライブラリを活用して、習熟を図るとともに、発表ノートを活用して考えたことを共有する場面をつくる。 6年：ICT 機器上に自分の考えを入力し、大型提示装置で全体に発表させることで、効果的に考えを表現し合えるようにする。	4年：一人一人の「分からない」という声に対し、みんなで教え合えるような場面を設定し、「分かった！できた！使えた！」という実感をもたせる。 5年：「めあての提示」を徹底することと、協働的に学ぶ場面を多く設定することで、学びに向かう力を涵養する。 6年：単元の初めに学習計画を立てたり、全体の流れを振り返ってからまとめをしたりすることで、児童の学ぶ意欲を高める。

令和6年度 武蔵村山市立第九小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
語彙を使ったり文章を書いたりするための、言葉の力を身に付ける。	**自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりする力を高める。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ自分の考えを伝えようとはするが、論理的にまとめることが苦手な児童が多い。	ア関心を持てるように、言葉遊びやゲーム形式で漢字の学習に取り組む。 イ話合いや全体で意見を共有する場面では、目的に合った思考ツールを用いて話し合う視点を明確にする。	ア市学力調査【知識・技能】 57.1%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 54.4%（平均正答率） 所見 発表で伝える内容を正確に整理するため、語彙を増やすことが課題。
第5学年	ア語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア言葉を使うことの良さを伝え、書く、読む、話す・聞くことの関連を踏まえて既習事項を振り返り、言葉の力の定着を図る。 イ学級活動や他教科をとおして、グループで話し合ったり、考えを書いてまとめたりして、相手に伝えたりすることを意識して、考える活動に取り組む。	ア市学力調査【知識・技能】 57.4%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 52.8%（平均正答率） 所見 文章に書いていることを理解しやすくするため、語彙を増やすことが課題。
第6学年	ア語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア言葉を使うことの良さを伝え、書く、読む、話す・聞くことの関連を踏まえて既習事項を振り返り、言葉の力の定着を図る。 イ学級活動や他教科を通して、グループで話し合ったり、考えを書いてまとめたりして、相手に伝えたりすることを意識して、考える活動に取り組む。	所見 基礎・基本の定着を図る必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人一人の課題をワードやエクセルで作成することで書くことへの負担を軽減し、プレゼンテーションソフトを活用して意見を発表できるようにする。 5年：学習支援ソフトを用いて、文章の構成を考えたり、教材文の読み取りをしたりして、友達と自分の考えを共有させる。 6年：学習支援ソフトを用いて、文章の構成を考えたり、教材文の読み取りをしたりして、友達と自分の考えを共有させる。	4年：振り返りの視点を明確にすることとこれまでの学習の流れが分かるような振り返りシートを用意し、次への意欲を高め、目的を明確にする。 5年：日頃から漢字や言葉の意味を問い、言葉に親しみを持てるようにする。 6年：漢字テストで熟語を書けば追加点がもらえるように設定し、言葉を覚えようとする意識を持たせる。

令和6年度 武蔵村山市立第九小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数の感覚を身に付け、式や計算の意味を理解できるようにする。	**自分の考えを、既習事項をもとに説明できるようにする。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア基本的な四則演算に課題がある児童が多い。立式や計算ができても、意味を理解している児童は少ない。 イ問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア基本的な計算のうち、苦手にしている内容までさかのぼって復習することで、定着を図る。 イ既習事項を繰り返し確認し、既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	ア市学力調査【知識・技能】 53.7%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 50.6%（平均正答率） 所見 数の感覚や計算のきまりについて、より習熟することが課題。
第5学年	ア基本的な四則演算に課題がある児童が多い。立式や計算ができても、意味を理解している児童は少ない。 イ問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア基本的な計算のうち、苦手にしている内容までさかのぼって復習することで、定着を図る。 イ既習事項を繰り返し確認し、既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	ア市学力調査【知識・技能】 44.3%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 33.1%（平均正答率） 所見 既習内容を活用するために、既習内容に習熟することが課題。
第6学年	ア基本的な四則演算に課題がある児童が多い。立式や計算ができても、意味を理解している児童は少ない。 イ問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア基本的な計算のうち、苦手にしている内容までさかのぼって復習することで、定着を図る。 イ既習事項を繰り返し確認し、既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	所見 基礎・基本の定着を図る必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：早く課題を終えた児童がプレゼンテーションソフトを用いて問題作りやそれを解き合う活動を行い、理解を深めさせる。 5年：学習支援ソフトで自分の考えを友達と共有し、見方や考え方を広げさせる。 6年：学習支援ソフトで自分の考えを友達と共有し、見方や考え方を広げさせる。	4年：毎時間めあてとまとめを板書し、それぞれが振り返る時間を確保する。 5年：既習事項を繰り返し確認する場面を作ることで定着させ、新出内容について論理的に考えられるようにする。 6年：既習事項を繰り返し確認する場面を作ることで定着させ、新出内容について論理的に考えられるようにする。

令和6年度 武蔵村山市立第十小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	**筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア新出漢字を文章の中で使うことができない。 イ話の内容を捉え、相手に伝える力が低い。	ア漢字を学習するときに、文章を書かせる。振り返り等で使った漢字の数を数える。 イペアやグループの話合い活動と、調べたことの発表会をする。	ア市学力調査【知識・技能】 44.7%（前年度 44.4%） イ市学力調査【思考・判断・表現】 39.8%（前年度 34.4%） 所見 グループ学習の成果が見られる。
第5学年	ア漢字の習熟が低く、語彙が少ない。 イ思考に関わる語彙の量が少なく、考えが広がらない。	ア漢字小テストを習慣化・読書の推進 イ思考のモデルを示し、真似することから始める。	ア市学力調査【知識・技能】 51.1%（前年度52.6%） イ市学力調査【思考・判断・表現】 45.2%（前年度43.3%） 所見 思考する力がついてきた。
第6学年	ア漢字の習熟が低く、語彙が少ない。 イ文章の構成や展開をとらえること、要点をつかむ力が低い。	ア漢字小テストを習慣化・読書の推進 イ一般的な文章の構成を理解し、要点がどこに書いてあるか自力で探すことを繰り返す。	所見 基礎・基本の定着を図る必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：ドリルプラネットを活用し、漢字の習熟を図る。 5年：あかねこドリルを活用し、小テストの習慣化を図り漢字を習熟させる。 6年：e ライブラリとドリルを活用し、漢字を繰り返し学習させる。	4年：教科書の教材にある巻頭言を活用し、見通しをもった単元開きをする。 5年：個別の学習計画を立てさせ、いつまでに何をやるか考えて学習することを習慣化させる。 6年：ジャーナルの習慣化を図る。

令和6年度 武蔵村山市立第十小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。	**見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を養う。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア除法計算で商の見積もりが出ない。立たない。（乗法九九の習熟が低いため） イ計算や図形に関して、成り立つ性質を見いだし、くふうして考える力が低い。	ア復習を取り入れる。フラッシュカードで九九の習熟をする。 イまず穴埋め方式で考え、スモールステップで思考を深めていく。	ア市学力調査【知識・技能】 46.9%（前年度 47.8%） イ市学力調査【思考・判断・表現】 44.7%（前年度 30.6%） 所見 思考の力が上がってきた。
第5学年	ア小数のわり算の習熟が低い。 （商の立て方、あまりの考え方など） イ2つの数量の対応や変わり方に着目し、簡単な式で表されている関係を考察する力が低い。	ア小数のわり算を復習する時間を作る。 イ立式などに対して、理由を添えて発言する習慣をつける。	ア市学力調査【知識・技能】 41.4%（前年度 39.4%） イ市学力調査【思考・判断・表現】 34.6%（前年度 24.6%） 所見 理由を考える力が育ってきた。
第6学年	ア分数の意味と、比例の意味が分からない。 イ伴って変わる2つの数量やそれらの関係について考える力が低い。	ア過去の学年にさかのぼり、復習をする。 イ授業の既習を使った練習問題を用意し、同じような関係だと気づかせて自分で考える力をつける。	所見 基礎・基本の定着を図る必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：e ライブラリで、前学年の復習をさせる。 5年：あかねこドリルで、繰り返し計算問題に取り組ませる。 6年：e ライブラリで個々のレベルにあった復習問題に取り組ませる。	4年：単元の始めに、オープニングムービーを見せて学習の見通しをもたせる。 5年：授業で学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめを書かせる。 6年：学習の振り返りの定着を図る。

令和6年度 武蔵村山市立雷塚小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすることができる。	**目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように文章を整えることができる。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア読み書きの習得率は個人差が大きく、学習した漢字を文章に書く際に使用できない児童が多い。 イ相手や目的を意識して自分の考えを表現することや、自分の文章を読み直して間違いを正すことに苦手意識をもっている児童がいる。	ア漢字を読み書きする機会をどの授業でも意図的に増やす。また、辞書や辞典を使って自分で調べる活動を積極的に取り入れる。 イ要点を押さえ、伝えたいことを端的に伝える活動を取り入れる。また、普段から自分の文章を読み直すことや、互いの考えを伝え合う活動を取り入れる。	ア市学力調査【知識・技能】 漢字を「読む」ことは全国平均に近い数値だったが「書く」は全国平均値より大幅に低かった。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 文章を書く力は、全て全国平均より低かった。 所見 漢字は学習した直後は覚えているが、時間が経つと忘れてしまう児童が多いため、繰り返し復習することが大切であると感じた。
第5学年	ア １割の正答率の児童から９割の正答率の児童まで、漢字の読み書きの正答率は、個人差が大きい。 イ自分の考えをもち、表現することに課題がある。主語・述語・修飾語等の文法を正しく理解し、文章に書き表す力に個人差がある。	ア全教科を通して文章の中で漢字を使う経験を重ねたり、音読や黙読等、読む機会を意図的・計画的に増やしたりしていく。 イ文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を、ICT 機器を使って伝え合う。その中で、自他の文章の良いところを見つける活動を取り入れる。	ア市学力調査【知識・技能】あ 昨年度より5%高く61.3%だった。漢字を「読む」の正答率は、全国平均値より0.4%高かったが「書く」は平均値より7.5ポイント低かった。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 昨年度より18.4%高く61.9%だった。ただ、文章を書く力は、全国平均と比べると 12.8 ポイント低かった。 所見 学力の差が大きく、学んだことの定着が十分でない児童も多数いるため、書く活動を多く取り入れ学力の底上げが必要である。
第6学年	ア 小テストの結果では、学級の平均が高いが、出題範囲が分かっていないテストになると正答率が下がってしまう。 イ 文章を書いたのち、その文章を推敲する児童が少ないのが課題である。	ア 小テストで学習を終わらせるのではなく、その後も文章の中で漢字を使う経験を重ねたり、自主学習で日常的に漢字を使用する場面を設定したりする。 イ 一人で推敲に取り組むのに加えて、友達と文章を読み合う時間を取り入れたり、友達の文章に対して自分の考えを伝えたりする場面を設定する。	所見 日頃の積み重ねが、成果として表れている。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人１台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人１台端末を用いて漢字の復習をさせる。また、作文等を書くとき、文章の下書きをタブレットで行い、自分で読み直し推敲したり、友達と比較したりさせる。 5年：他教科と関連させ、グループごとにテーマに沿った文章を共同で編集する中で、文章表現や内容を改善し、文章構成力や相手の意見を取り入れる柔軟性を身に付けさせる。 6年：作成した文章をクラスの全員が見られる環境を設定し、友達の文章に対してよかったところを伝えるコメント機能を設定する。	4年：授業で学んだことを毎時間振り返り、できるようになったことやこれから学びたいことをクラスで共有する。 5年：デジタルポートフォリオを作成し、学習の進捗や成果を可視化して振り返りを行うことで、学びに向かう力を育成する。 6年：学習課題を全体で確認し、その課題を解決するために自分で学習方法を工夫していくような活動を設定する。毎回の振り返りを着実に行い、学びに向かう力を育成する。

令和6年度 武蔵村山市立雷塚小学校 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
整数、小数及び分数の性質を理解するとともに、それらの計算の意味について理解し、計算することができる。	**数量の関係や問題場面の数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考えている。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア既習事項を生かして学習に取り組める児童が少ない。 イ計算する中で、計算の仕方を考えられても、言葉で説明することが苦手な児童が多い。	ア既習事項の確認をしたり、東京ベーシックドリル等を活用したりして、定期的に復習を行う。 イ自分の考えを友達と共有する場面を設定し、根拠を基に問題を解決する経験を積ませる。	ア市学力調査【知識・技能】 計算問題は、全体的に校内正答率が低い。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 作図や折れ線グラフ、角の大きさは、全国平均に近い数値や平均より高い数値があった。 所見 学力の差が大きく、積み重ねがない児童もいる。引き続き東京ベーシックドリル等を活用して学力の底上げを目指したい。
第5学年	ア数量や図形の知識・技能の定着に個人差がある。 イ問題に対して自力で解決したり、複数の解決方法を見出したり、適切に説明し伝え合ったりする力が身に付いていない児童がいる。	ア計算ドリルや東京ベーシック・ドリル、ICT 機器を効果的に活用し、5 年生の基礎的・基本的な知識の確実な定着を図る。 イ毎時間既習事項を確実に定着させた上で、適切な手立てを用いて考えたり、筋道を立てて課題を解決したり、説明し合ったりする場面を適宜取り入れる。	ア市学力調査【知識・技能】 昨年度より0.5%低く、58.1%だった。体積や図形の角の領域が概ね、全国平均よりも10ポイント程度低く、再度知識の定着を繰り返し行う必要がある。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 昨年度より11.5%高く48.4%だった。思考・判断・表現は概ね、4 ポイント程度全国よりも低かったが、市町村平均より10ポイント程度高く、授業で取り組んだことが結果として表れている。 所見 思考を働かせながら知識の習得を目指し、引き続き、アウトプットを中心とした授業に取り組んでいきたい。
第6学年	ア数量や図形の知識・技能の定着が大きく２極化している。 イ一つの解法だけでなく、他の解法を考えるなど、色々な角度から問題を考えることが難しい児童がいる。	ア 一斉指導だけでなく、自由進度で学習を進める時間を設定し、学習内容の定着を図る。 イ全体共有の際に、一つの考えでなく、様々な考えを共有し児童が多くの考えに触れられるようにする。	所見 日頃の積み重ねが、良い成果として表れている。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人１台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人１台端末を用いて、東京ベーシックドリルに取り組ませ、自分の苦手な単元を復習させる。 5年：学習の後半で ICT 機器を活用して発展問題に取り組ませ、学習の個性化を図る。また、ミライシード等を活用し、考えを共有する。 6年：自分の考えをデジタルノートに書き表し、児童が多くの考えに触れられるようにする。また、自習の時間を設けてドリルパークや ｅライブラリを活用していく。	4年：単元に入る前に既習事項を確認、復習をさせ、学習の見通しをもたせる。また、本時の振り返りを毎授業行い、次の授業に生かせるようにする。 5年：単元前に既習事項を確認し、その定着を図ることで、思考のスタートラインを揃える。毎時間、「今回学んだことで、次できそうなことは何か。」を問うことで、統合・発展を図る。 6年：学習課題を全体で確認し、その課題を解決するために自分で学習方法を工夫していくような活動を設定する。毎回の振り返りを着実に行い、学びに向かう力を育成する。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校（　ひまわり学級　）

目指す授業	○　児童が自信をもって取り組める授業 （児童の実態に合わせた課題の設定、個に応じた支援） ○　視覚的に分かりやすい授業 （ICT 機器の活用、具体物の提示） ○　児童の学びが深まる授業 （体験的な学習活動、振り返りの充実、具体物を用いた教材の工夫）

教科	①　児童の実態・課題	②　授業改善の取組	③　取組結果
国語	・語彙が少ないことや、単語を聞いて実物を想起することが難しい。 ・話を聞いたり文章を読んだりしたことから内容をイメージすることが難しい。 ・集中して話を聞くことが難しい。	・しりとりやカルタなどの言葉遊びを通して、語彙の習得を目指す。 ・文章を短く区切りながら聞き取らせる。また、文章の様子を表した場面絵などを用いた読み取り活動に取り組ませる。 ・言葉だけでなく、絵などの掲示物を取り入れ説明する。端的に説明し、集中して取り組む時間を設定する。	・カルタなどを用い、楽しみながら様々な語彙に触れることができた。意味を理解し、会話や文章中で正しく活用していくことが引き続きの課題である。 ・聞くだけでなく画像や動画を活用することでイメージをもたせ、見たことを表現することはできた。 ・一斉指導や全体での指示を正しく理解して活動することは難しい児童がまだ多い。
算数	・文章問題を読んで立式し、正確な答えを導き出すことが難しい。 ・数の概念の理解が難しい。 ・既習事項の定着に多くの時間を必要とする。	・文章問題の場面を具体的に表し、内容をとらえさせる。具体物などの操作を通して、正しく計算ができるようにする。 ・具体物を用いた学習活動を設定する。 ・既習事項の定着を図るために、掲示物を工夫したり、個別の課題を設定したりしながら計画的に繰り返し学習する時間を設ける。	・文章問題をいくつかのパターンで考えることで演算決定がしやすくなった。四則計算は、1年間を通して繰り返し学習することで力を付けた児童が多かった。 ・日常的に数を数えたりカレンダーで日付を確認したりする活動も意図的に行い、少しずつ数概念が形成された。 ・個別の課題に取り組むことで基礎学力を身に付けることができた。学習の定着を図り、計画的に復習を行う。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校（　なのはな学級　）

目指す授業	○ 児童が自信をもって取り組める授業 （児童に寄り添う言葉掛けや支援のある授業） ○ 児童が分かりやすい授業 （学習内容の視覚化、具体物を用いた教材、教具を活用した授業） ○ 児童がすすんで取り組める授業 （集中して学習に取り組める授業、基礎・基本を重視した授業）

教科	①　児童の実態・課題	②　授業改善の取組	③　取組結果
国語	○単語や漢字を正しく読む力 ・拗音、長音が定着していない。漢字の読みが定着まで時間がかかる。 ○集中して話を聞く力 ・自分のことを話したい思いが強く、相手の話が終わるまで待てない。他に注意が向かい集中して聞けない。 ○文字や漢字を正しく書く力 ・書くことに抵抗がある。漢字の定着まで時間がかかる。	○拗音、長音の正確な理解を促す。特殊音節の音の動作化を行い、表記の違いに気付かせる。特性に応じた漢字学習に取り組ませる。 ○最後まで話を聞く習慣を身に付けさせるため、日常的に聞くことを意識させる指導を行う。 ○個に応じた課題を設定する。単語や短文から書く。なぞる、視写するなど児童それぞれの実態に応じて書き方で取り組ませる。	○様々な場面で、児童の特性に的確な言語活動を取り入れ、児童の特性に合った言語表現ができるようになってきた。 ○学習活動の中で聞くことに特化した学習を多く設定し、集中して最後まで話を聞くことができるようになってきた。 ○特性に応じた個別の課題に取り組み、自分で考えて書くことができるようになってきている。
算数	○正確に計算する力 ・学年に応じた基礎的な計算が定着していない。 ○問題を理解し解く力 ・題意を捉えて考えることが難しい。	○児童の実態に応じ、場合により下の学年まで戻り、基礎的な計算を繰り返し学習させる。 ○問題内容の視覚化や、具体物、半具体物の操作、絵や図の活用、動作化等、児童の実態に応じた考える学習を積み重ねさせる。	○児童の理解に応じた計算を繰り返し行い、少しずつステップアップすることで、計算方法が定着してきている。 ○特性に応じて課題を設定し、内容を理解して取り組むことができるようになってきている。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校村山学園小学部 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
当該学年までに配当された漢字や語句の意味を理解して話や文章の中で正しく使う力。	**・中心となる語や文、必要な情報を見付け、文の全体像を具体的に想像する力。 ・自分の考えと事実や理由を分けて相手に伝わる文章を書く力。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア新出漢字や語彙の定着が不十分である。 イ文章問題の間違えた読解をしてしまう。	ア新出漢字や語彙を使った短文作りに取り組ませる。 イ文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】57%（平均正答率） ○日記を週末の課題に設定し、新出漢字や語彙を使った文章を書く習慣ができた。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 50.5%（平均正答率） ○指示語の対象を見つけることができた。
第5学年	ア文章の読解や問いに答えることができていない。 イ自分の言葉で説明することが苦手である。	ア文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行う。日常的に辞書を使った意味調べをする。 イ書いた文章を友達と読み合う場面を設定し、様々な表現方法があることに気付かせる。話型を提示する。	ア市学力調査【知識・技能】+0.5% イ市学力調査【思考・判断・表現】+10.9% ○範読を繰り返すことで、文章の大事なところを見付けることができる児童が増えた。
第6学年	ア新出漢字や語彙の意味が定着していない。 イ叙述を基にして、自分の考えをもち、文章や発表等で表現できていない。	ア新出漢字の定着を図る小テストを実施する。 読解単元で使用される言葉の辞書を使った意味調べに取り組ませる。 イ日記やその日にあったことを振り返る文章を書き、文章を書くことに慣れ親しみ書きやすい状況を作っていく。	ア小テスト、カラーテスト【知識・技能】 イ小テスト、カラーテスト【思考・判断・表現】 ○事前の意味調べや小テストの復習を細やかに行うことで、語彙を増やすことができた。 ○体験したことや考えたことを振り返り、短い文章にすることで、読み手にとって、分かりやすい文章を書ける児童が増えた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末のドリル教材を活用して、正答率が低い新出漢字の反復練習に取り組む。 5年：タブレット PC を活用して、ドリル教材に取り組む。 6年：タブレット PC を活用したドリル教材を使うことで、語彙を増やしていく。	4年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 5年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 6年：情報共有ソフトを使用して、児童間での意見交換や共有を行っていく。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校村山学園小学部 授業改善推進プラン　教科名 **算数**

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などの基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する力。	**問題場面を具体的に想像し、数量の関係に着目して、根拠を基に道筋を立てて考えたり、立式したりする力。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア四則計算の定着が不十分である。 イ文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	ア朝学習や授業の導入で、四則計算に取り組む時間を設定する。 イ文章問題を読み、何を求められているのか、文章に線や印を付け、見付けることができるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】 52%（平均正答率） ○主にかけ算の定着が見られた。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 43.9%（平均正答率） ○文章から立式できる児童が増えた。
第5学年	ア四則計算の定着が不十分である。 イ文章題からの立式が苦手である。	ア朝学習や授業の導入、家庭学習などでタブレットPCを活用し、四則計算の時間を設定する。 イ文章題の単位から立式の仕方を考えさせる。立式に必要な情報を読み取らせ、確認する。文章題の内容を、図や表に表して考える場面を設定する。	ア市学力調査【知識・技能】−7.7% イ市学力調査【思考・判断・表現】−0.8% ○文章題の単位から、求めることを考えて立式しようとする児童が増えた。
第6学年	ア四則演算（主にかけ算・わり算）の定着が不十分である。 イ文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	ア朝学習や授業前に基礎計算の時間を設け、四則演算の力を高めていく。 イ教員と文章を丁寧に読み込み、求められている答えが何であるかを一緒に把握し、答えを出すポイントを丁寧に割り出すようにする。	ア東京ベーシックテスト【知識・技能】 イ東京ベーシックテスト【思考・判断・表現】 ○友達と考えを共有する時間を設定することで、自分の考え方を説明ができる児童が増えた。 ○式だけで考えるのではなく図などに表すことで整理できる児童が増えた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末のドリル教材を活用して、四則計算の反復練習に取り組む。 5年：一人1台端末を活用して、ドリル教材に取り組む。 6年：一人1台端末のドリル教材を活用して、四則演算の力を定着させる。	4年：導入で毎時間めあてを確認し、学習の見通しをもたせる。最後に振り返りを書かせる時間を設け、自己の振り返りを行わせる。 5年：廊下掲示や「学びの壁」を活用し、学習したことをいつでも見返すことができるようにする。 6年：問題を提示し、そこから問題解決への見通しを立たせる授業の流れを作る。学習内容を振り返り、まとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・学年別漢字配当表の漢字の再確認及びその他の常用漢字を年間350字以上読めるようにする。 ・文章に含まれている情報の扱い方について、比較・分類整理等の基本的な技術を身に付ける。	・文章の種類ごとに、中心的部分と付加的部分や、主張と例や図表との関係、登場人物の人間関係や心情変化などを表現に即して捉えられるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア小学校学習漢字が身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イテストで間違えた問題をやり直す生徒が少ないところに課題がある。	ア小学校1年の学習漢字から、遡って指導を毎時間行うとともに、一つ一つの漢字の使用例を考えさせる。 イ定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	ア市学力調査【知識・技能】 41.9 ポイント（目標値より−9.4 ポイント） イ市学力調査【思考・判断・表現】 56.3 ポイント（目標値より−3.4 ポイント） 所見 知識・技能の不足をその場の思いつきでカバーしている様子が伺える。
第2学年	ア漢字の使い分けが身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イテストで間違えた問題をやり直す生徒が少ないところに課題がある。	ア昨年度に引き続き、小学校6年の学習漢字及び中学校学習漢字の指導・練習を毎時間行う。 イ定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	ア市学力調査【知識・技能】 66.6 ポイント（目標値より+0.6ポイント）。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 52.0 ポイント（目標値より−7.1 ポイント） 所見 「知識・技能」に関して向上が見られ、それに伴い「思考・判断・表現」も向上している。
第3学年	ア常用漢字の読み書き、使い分けが身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イテストで間違えた問題をやり直す生徒が少ないところに課題がある。	ア中学校3年学習漢字を中心に、高校入試頻出漢字もできるだけ多く、毎授業の中で指導を行う。 イ定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	所見 【知識・技能】に関しては、さほどの向上は見られなかったが、【思考・判断・表現】に関しては、やや向上が見られた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年：漢字使用例の端末検索やミライシード等のドリル学習の推奨を行う。 作文を書く際に、構成を確認したり、下書きを端末で行う。 文学的文章読解において、課題学習を設定し、端末を用いて発表を行う。	全学年：単元（作品）ごとに学習計画表を作成・配布し、授業の進行に合わせて自己評価を記入させる。単元（作品）終了後回収し、コメントをつけて返却する。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部 授業改善推進プラン　教科名 数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解 ・事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能	・数学を活用して事象を論理的に考察する力 ・数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア小学校段階での知識や計算等の理解が不十分、基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ事象を数学的に表現することが苦手数学を用いて事象を考察することが苦手	ア反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ問題解決に使えそうな知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。良い表現や考察の仕方について共通理解を図る。	ア市学力調査【知識・技能】 平均正答率50.0%（市町村54.2%） イ市学力調査【思考・判断・表現】 平均正答率36.7%（市町村40.1%） 中央値が高く、平均値が低いことから、平均より高い人が多く、低い人は平均との乖離が大きい
第2学年	ア基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ事象を数学的に解釈・考察することが苦手論理的に説明することが苦手	ア反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ問題解決に使えそうな知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。説明する機会を積極的に設定するとともに、良い説明の仕方について、そのモデルの共通理解を図る。	ア市学力調査【知識・技能】 R5 52.0%→R6 46.1%（R6 市町村 54.0%） イ市学力調査【思考・判断・表現】 R5 31.3%→25.5%（R6 市町村32.2%） 所見 数と式領域に改善が見られるものの、全体的に市町村、全国を大きく下回っている。
第3学年	ア基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ数量や図形の性質を見出し、証明すること（命題の構成と論証）が苦手数学を用いて事象を考察することが苦手	ア反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ問題解決に使えそうな知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。良い考え方を提示し、モデルの共有・共通理解を図る。	所見 小テストの結果等より、知識・技能の定着が見られた。 学習に対する取り組みが良くなり、定期考査の平均点が上昇した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年共通：ミライシードのドリルパークを活用し、問題演習量の確保と知識・技能の定着を図る。また、オクリンクやムーブノートを用いて、スムーズな教材の提示や全体共有を図る。 Kahoot!を用いて、演習を積極的に取り組むことを促す。	全学年共通：定期考査ごとや単元ごとなど、定期的に自身の学習の取り組みについて振り返りを行い、学習方法の反省や修正・洗練を促す。 学習内容について復習する課題を出すことで、学習内容（既有知識）の定着とそれに伴う「学びに向かう力」の定着を図る。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立小中一貫校村山学園（　Ｓ組　）

目指す授業	○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識・技能を増やし、その知識・技能の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業

教科	①　生徒の実態・課題	②　授業改善の取組	③　取組結果
国語	○拗音、促音、濁音の表記の仕方や助詞の使い方が定着していない生徒がいる。 ○漢字の読み書きに課題があり、文章を円滑に読めないことがある。 ○慣用句やことわざなど、意味を知らない語彙や言い回りがあり、日常生活で使用する言葉の意味を理解できないことがある。	○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、拗音、促音、濁音の正しい表記の仕方や助詞の適切な使い方を身に付けさせる。 ○継続的に漢字学習の取組を行う。また、タブレット端末を用いた問題演習や音読などの取組を通して、覚えた漢字をアウトプットする機会を設ける。 ○言葉の学習を通して、語彙の知識を増やす。また、日常生活における具体的な使い方を確認し、知識の定着を図る。	○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、語彙の正しい表記の仕方をおおむね身に付けたが、定着が十分ではない。今後も継続して定着を図る必要がある。 ○漢字学習の取組を通して、漢字を使う回数や読める漢字の量が増えた。 ○言葉の学習を通して、意味を理解している語彙の量が増えた。今後も継続して取り組み、語彙の知識をより増やす必要がある。
数学	○お金の計算や時間の計算などを日常生活の場面で活用することに課題がある。 ○整数の四則計算は、個による差が大きい。 ○文章問題は、文章の理解が難しい生徒や解法が思い浮かばない生徒がいる。 ○小数・分数の計算に、不安を抱える生徒が多い。	○日常生活の場面を想定した問題に取り組ませる。また、ロールプレイ形式を取り入れたグループ学習に取り組ませる。 ○個の学習状況に応じて、かけ算表など活用する手だてを伝え、問題に取り組ませる。また、プリントを段階的に用意し、取り組ませる。 ○繰り返し短い文章の読解を通じて、文章問題を読むことに慣れさせる。また、文章中の重要語句に注目させ、問題に取り組ませる。 ○タブレット端末を活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、計算パズル等に取り組ませたりすることで、楽しんで取り組ませる。	○日常生活の場面を想定した問題に多く取り組ませることで、お金の計算や時間の計算をする力が向上した。 ○基礎的な計算については、個別の課題等を用意し、今後も継続して定着を図る。 ○授業の中で多くの文章題に取り組み、文章中の重要語句から計算方法を予想する力が向上した。 ○タブレットを活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、具体物の操作やロールプレイ形式を取り入れたりすることで、計算の概念を理解させることができた。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立小中一貫校村山学園（　Ｅ組　）

目指す授業	○ 基礎・基本を定着させる授業 ○ 主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業

教科	①　生徒の実態・課題	②　授業改善の取組	③　取組結果
国語	○漢字が定着しておらず、文を円滑に読めないことがある。 ○書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多い。 ○話すことに対して意欲はあるが、スキルが身に付いていない。	○毎授業で漢字学習を行う。また、短文作成や漢字テストなどを通して、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。 ○作文課題では、タブレット端末を用いて、負担なく文章を作成できるよう手だてを講じる。また、文の構成に見通しをもって書くことができるよう、個に応じて文章の型を示す。 ○短い内容、小さな空間で話すことから始めるなど、スモールステップを踏んだ学習内容を設定する。	○短文作成や漢字テストを通して、読める漢字の量が増えたが、定着がまだ不十分である。取組を継続し、より定着を図る必要がある。 ○一人１台端末を用い、文章を修正しやすくすることで、書くことに対する苦手意識が軽減された。 ○スピーチやグループ発表の場では、スモールステップと十分な準備時間により、適切に話すことができた。しかし、長い内容に対するスキルは不十分な部分もあったため、取組を継続し、スキルの定着を図る必要がある。
数学	○基本的な知識・技能の定着が不十分である。 ○事象を数理的に捉え、表現・処理する技能が身についていない。 ○計算することに対して苦手意識をもつ生徒が多い。	○個の学習状況に応じて難易度の異なるプリントを段階的に用意し、繰り返し取り組む機会を作る。 ○具体的な場面を提示し、情報を整理して考察する時間を設ける。また、前時に学んだ内容を授業の初めに振り返る。 ○基礎的な計算から段階的に取り組み、スモールステップで達成感を感じさせながら学ばせる。	○基礎を定着させながら、次のステップに進むことができた。 ○具体的な場面をイメージして、問題解決の手順や、論理的な思考方法を冷静に考える生徒が増えた。前時の内容と一貫性をもって、授業に取り組む生徒が増えた。 ○自分に合った目標を達成する成功体験が積み重なり、自信をもって前向きに取り組むことができた。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
言葉の意味や用法の理解、文章の構造や内容を理解する力を養う。	**・明確で効果的な文章を書く力を養う。** **・口頭で自分の意見を伝える力を身に付けさせる。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア文章に書いてあることを、正しく理解することが、苦手である。 イ課題に対する、自分の考えをもつことが、苦手である。	ア音読に取り組ませる。人物の気持ちや場面の様子を捉えられるよう、話し合いで考えを共有させる。 イ選択肢のある課題や、児童の関心の高い課題を提示することで、自分の考えをもたせるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】 正答率は、59.9% イ市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、53.6% 所見 行数指定や2段落構成で書くなどの条件下で書く経験を持たせる。
第5学年	ア読解力に差があり、文脈を正確に読み取ることが難しい場面が多くある。 イ自分の意見を、理由を添えて説明することが苦手である。	ア要点をどのように読み取るのか、具体的に指導し、サイドラインを引かせて可視化できるようにする。 イ話し合い活動の前に、自分の考えをワークシートやノートに書かせる。	ア市学力調査【知識・技能】 正答率は、58.5% イ市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、57.0% 所見 日常的に根拠をもとにした自分の考えをもたせる指導が必要。
第6学年	ア文章を正しく読みとれず、要点をおさえたり、要旨をまとめたりすることが難しい児童が多い。 イ自分の意見を、他者に分かりやすく伝えることに、苦手意識がある。	ア文章の構成や、大切な語句に注目させながら文章を読む。読み取った内容を、まとめる活動に取り組ませる。 イ意見交換をする機会を増やす。児童同士で、伝え方の評価をさせる。	ア 要点を押さえられる児童が増えた。要旨をまとめることにはまだ課題がある。 イ 分かりやすく伝えるための工夫ができるようになってきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。理解したことを Microsoft Teams を使って、交流する。 5年：児童ごとに異なるテーマを設定し、デジタル教材を使って個別に取り組ませる。最終的にまとめて一つのプレゼンテーションを作成する。 6年：児童が各自で個別に国語に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。	4年：児童の興味関心に合わせた物語を紹介し、読書活動を推進させることで、国語への意欲を高める。 5年：漢字テスト等で目標設定を行い、努力を褒め、学びの成果を認めることで、意欲を高める。 6年：自身の課題を把握させた後、自分で学習目標を設定し、自主的に学習をすすめるよう指導する。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校 授業改善推進プラン 教科名 算数

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な計算能力や、数学的な概念の理解を深める。	**答えだけでなく、その導出過程を分かりやすく説明できるようにする。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア四則計算で簡単な間違いをしたり、時間がかかったりする児童がいる。 イ解き方や考え方を説明することが苦手である。	ア 100 マス計算やプリントを使い、基本的な四則計算の反復練習に取り組ませる。 イ類似問題の数値を簡略化させて解かせる。また、解き方や考え方を選択できるようにする。	ア市学力調査【知識・技能】 正答率は、59.9%。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、53.6%。 所見 数直線上の数の大小や、概数の表し方が弱い。
第5学年	ア基本的な方程式や、式の操作方法を理解できていない児童がいる。 イ解き方や考え方を説明することが苦手である。また、立式をする際、筋道を立てて考えることが苦手な児童が多い。	ア反復練習に取り組ませる。また、買い物の計算や時間の管理など、実生活で遭遇する問題に取り組ませる。 イ既習事項や公式を教室に掲示したり、学習の初めに復習したりする。また、説明のフォーマットを準備する。	ア市学力調査【知識・技能】 正答率は、53.1%。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、42.6%。 所見 小数のかけ算・わり算、分数のたし算・ひき算が弱い。
第6学年	ア基礎的な計算能力に、差が見受けられる。 イ解き方や考え方を説明することが苦手である。長文問題の読み取りが苦手な児童が多い。	ア定期的な小テストを実施し、学習の進捗を確認する。個々の理解度に応じた、ドリルの取組ができるようにする。 イ長文の文章問題では、必要な情報を枠で囲ませたり、数値を簡略化させたりすることで、理解できるようにする。	ア いろいろな手立てにより、計算能力の向上が見られた。 イ 問題の読み取りができるようになった児童もいるが、課題が残った。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。最終的にグループでフィードバックを行う。 5年：児童ごとに課題を設定し、デジタル教材を使って個別に取り組ませる。理解度ごとのグループをつくり、協力して課題解決できるようにする。 6年：児童が各自で個別に算数に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。	4年：数字や形を使ったゲームやパズル等を取り入れ、楽しみながら学べる活動を行うことで、好奇心を引き出す。 5年：毎日短時間でもドリルに取り組ませ、その成果を可視化させることで学習習慣を確立させ、正解したときや努力を認めることで、前向きな態度を育てる。 6年：学習の振り返りを行い、自己の理解度を自己評価することで、学びに向かう力を高める。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけさせるために、学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができるよう指導する。	**論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養うために、書く指導にあてる時間を十分に確保する。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア基本的な漢字の読み書きができる。 イ文章の内容を適切に解釈する。	ア毎時間の小テストと反復練習。 イ言葉同士のつながり、文同士の関連を意識した読解の授業。	ア市学力調査【知識・技能】 61.9%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 52.4%（平均正答率） 所見 知識・技能については、目標値を超えていて、取組が成果につながっている。思考・判断・表現についても、目標値を超えていて、朝読書などの読書量が反映していると思われる。
第2学年	ア基本的な漢字の読み書きができる。 イ自分の思いや考えが適切に伝わる文章を書ける。	ア毎時間の小テストと反復練習。 イ短い課題作文を多く出題する。	ア市学力調査【知識・技能】 64.0%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 51.6%（平均正答率） 所見 知識・技能については、全国平均を上回り、取組の成果が表れている。思考・判断・表現については、目標値を超えている。授業に取り組む姿勢が反映しているものと思われる。
第3学年	ア基本的な漢字の読み書きができる。 イ筆者の主張を踏まえて、自分の考えを具体的に書ける。	ア学期に2回実施する漢字50問テストと反復練習。 イ説明的文章を活用して、課題について作文を書く。自身で添削する。少人数グループとなって評価活動をする。	ア漢字50問テストの得点の変容【知識・技能】 イ作文内容の評価活動【思考・判断・表現】 所見 漢字50問テストの平均点に大きな変容はなかった（どれも33～34点）。漢字ノートの提出具合は、ほぼ全員が期限内に提出できたので、意欲はあった。作文は語彙力に課題を感じた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：e ライブラリの活用。 2年：発表活動に向けての調査・研究。 3年：作文や発表活動に向けての調査・研究	1年：定期テスト時のワークブックの提出。 2年：定期テスト時のワークブックの提出。 3年：定期テスト時のワークブック等の提出　教師自作の課題プリント等の提出

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 授業改善推進プラン　教科名 数学

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や、法則を理解させるとともに、事象を論理的に考える力を身に付けさせる。	**数量や図形の基礎的な概念や、法則を基に、事象を数学的に表現・処理する力を身に付けさせる。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア基礎的な計算方法を身に付けること。 イ文章問題や、説明する問題に対して無回答が多いこと。	ア eライブラリ等を活用し、反復学習を行う。 イ授業でのグループ活動で積極的に数学の言葉を使い、他者に説明させる。	ア市学力調査【知識・技能】 53.8%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 36.5%（平均正答率） 所見 知識技能、思考・判断・表現ともに、全国平均を大きく下回っているため、2学年の内容に加え、1学年の学習までを振り返る。
第2学年	ア基礎的な計算方法を身に付けること。 イ題意を理解し、式を立てること。	ア復習問題を定期的に扱い、反復練習をする機会を設ける。 イ類題を多く扱い、立式することに慣れさせる。	ア市学力調査【知識・技能】 56.9%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 38.8%（平均正答率） 所見 知識・技能、思考・判断・表現ともに、全国平均を上回ることができた。しかし、知識・技能の数値が目標値に達していないため、学習の定着を目指す授業づくりを意識する。
第3学年	ア公式を暗記し、活用して計算すること。 イ証明問題の正答率が低いこと。	ア復習問題を定期的に実施し、反復練習をする機会を設ける。 イ定期考査で問題を出題し、自主学習に取り組ませる。	ア定期考査、単元テストの得点の変容【知識・技能】 イ定期考査、単元テストの得点の変容【思考・判断・表現】 所見 知識・技能では、特に計算問題について正答率を高めることができた。思考・判断・表現の問題では、定着するまでに時間がかかるため、より継続して反復練習をさせる必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：教科書のインターネットコンテンツを活用し、実際に操作させ、特徴を見出させることや、eライブラリを活用し、反復学習を行う。 2年：教科書のインターネットコンテンツを扱い、事象を視覚的に理解することや、反復学習に、eライブラリを活用する。 3年：教科書に記載されているインターネットコンテンツを活用する授業や、一人1台端末を使ってグループで問題を作成し、解き合う取組を実施する。	1年：定期考査の振り返りレポートの作成や、各章ごとに振り返りシートを書かせ、自分の躓きや成長を実感させる。 2年：定期考査後に学習の振り返りシートを記入する。また、各章の授業内容を終えた際は、単元テストを行うことで、学びに向かう機会を増やす。 3年：各章の終了後、学習の振り返りシートを記入する。章の内容を踏まえたレポートを作成させることで、知識を定着させて自ら学ぶ姿勢を育成する。

令和6年度 武蔵村山市立第一中学校 授業改善推進プラン　教科名 国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・小学校配当の漢字を普段の生活のなかで書けるようにする。 ・文章を書くとき、主述の関係や、接続語を的確に使い、他者に伝わる文章を書く。	・読書に親しみ、月に2冊以上、本を読む。 ・自分の意見を、根拠を明確にして他者に伝えられるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア小学校の配当漢字が読めない生徒がいる。 イ文章を書く際、主述の分かりにくい文章を書く生徒が多い。	ア名文の視写を定期的に行い、漢字に親しむ時間をつくる。 イ単元ごとにミニ作文を書き、生徒同士で読ませることで、他者意識を持った文章を書かせる経験を積む。	ア市学力調査【知識・技能】 中一時漢字正答率→60% イ市学力調査【思考・判断・表現】 中一時作文問題正答率→50%
第2学年	ア小学校の配当漢字が読めない生徒がいる。 イ本を読む生徒が少ない。	ア漢字を使ったゲームや、辞書を使う授業を増やし漢字に親しむ時間をつくる。 イ教科担当と、図書館司書で定期的にブックトークを行い、本に親しむ環境をつくる。	ア市学力調査【知識・技能】 中二時漢字正答率→64% イ読書のアンケート→月に本を1冊以上を読む率、4月35%、2月40%
第3学年	ア小学校の配当漢字が書けない生徒がいる。 イ文章を書く際に、根拠の不明確な生徒が多い。	ア漢字の小テストを定期的に行う。 イ定期テストの際に、作文問題を課し、他者に伝わりやすい文章を書く練習をする。	ア（所見）週に1回実施することで、定期考査の漢字の正答率があがった。 イ（所見）都立一般入試の作文では、多くの生徒が作文を書くことができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：スピーチの際、PowerPoint で資料作りをする。 2年：作文の際、手書き、PC 書き、選択制にする。 3年：スピーチの際、PowerPoint で資料作りをする。	1年：単元のはじめに授業計画（どのくらいの時数で何を行うか）を伝える。 2年：単元のはじめに授業計画（どのくらいの時数で何を行うか）を伝える。 3年：単元のはじめに授業計画（どのくらいの時数で何を行うか）を伝える。

令和6年度 武蔵村山市立第一中学校 授業改善推進プラン　教科名 数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
授業で学習する基本的な数の概念、式が分かるようになる。	**自分で問題を解いた際、自分の考えを筋道を立てて説明し、相手に説明ができるようになる。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第１学年	ア小学校の学習内容の理解が不十分である。 イ計算の過程の記述に不備が多い。	ア小学校の学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 イ質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	ア市学力調査【知識・技能】 50.5%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 34.4%（平均正答率） 所見 市町村平均を下回った。
第２学年	ア第１学年の学習内容の理解が不十分である。 イ計算の過程の記述に不備が多い。	ア第１学年の学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 イ質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	ア市学力調査【知識・技能】 前年 44.4% 今年度 51.6% イ市学力調査【思考・判断・表現】 前年 28.3% 今年度 28.2% 所見 昨年度より知識技能の正答率が上昇した。
第３学年	ア第2学年までの学習内容の理解が不十分である。 イ計算の過程の記述に不備が多い。	ア第2学年までの学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 イ質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	所見 定期考査や都立高校入試にて、基礎的な内容を問う問題の正答率が安定した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人１台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
１年：Temas などで資料を展開する。 2年：Temas などで資料を展開する。 3年：Temas などで資料を展開する。	１年：定期試験後などで振り返りを課し、今後の自身の学習における課題を把握できるようにする。 2年：定期試験後などで振り返りを課し、今後の自身の学習における課題を把握できるようにする。 3年：定期試験後などで振り返りを課し、今後の自身の学習における課題を把握できるようにする。

令和６年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一中学校（Ｉ組）

目指す授業	○ 基礎的な内容を理解させる。 ○ 視覚や聴覚の情報を活用し、繰り返しによる定着を図る。 ○ 考えたことを自分の言葉で表現できるようにする。

教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・言葉の概念を理解していない。 ・話を最後まで聞けない。 ・漢字の読み書きができない。 ・会話で相手の意図を想像することができない。 ・テーマに沿った作文を書くことができない。	・図や写真、ネットの画像や動画を活用し、動作等取り入れて、具体的に理解させる。 ・相手の話を最後まできちんと聞く姿勢を育てる。 話のポイントを簡潔に伝える。 ・漢字の筆順、熟語の意味の学習を丁寧に行う。漢字検定試験を活用し、練習させる。 ・生徒の応答を丁寧に聞き取り、話がかみ合わない場合は根気よく説明する。 ・問題文を丁寧に読み取らせ、何について書けばいいのか考えさせる。書く順序をまとめさせる。タブレット端末を活用し、修正しながら書く練習をさせる。	・理解を深めることができた。 ・話を聞くことがだいぶできるようになったが、来年度も引き続き指導が必要である。 ・書く力は向上した。読みの指導は来年度も必要である。 ・説明することで、会話が続くようになってきた。 ・出来事の作文は、練習することで大分書けるようになった。
数学	・数を正確に効率よく数えることができない。 ・単位の意味を理解していない。 ・時計を正確に読に、何分前、何分後を理解することができない。 ・買い物の予算がたてられない。 ・文章題が解けない。	・配布物等の物をきちんと数えさせる。５ずつ、１０ずつまとめて数えさせる。 ・長さ、重さ、金銭の単位の基本をきちんと学習させる。単位換算表を活用できるようにする。 ・時計を読む練習をする。何分前、何分後については、時計を動かしながら確認し、計算させる。 ・１０００円でだいたいどのくらいの物が買えるのか計算機を用いながら、予算を立てさせる。校外学習、調理実習で買い物を経験させる。 ・文章のキーワードに注目させ、何を問われているのか確認する。加減乗除のどれを使うのかを考えさせる。困難な場合は図を描き、考えさせる。	・数え方を教えることで数えられるようになった。 ・単位はその都度指導することで、意識することができた。 ・時計を用いて根気よく指導した。今後も継続して学習する必要がある。 ・買い物した後の収支を計算させ、確認した。今後も継続して学習する必要がある。 ・図を描くことで何を求めたらいいのか考えられるようになった。今後も継続して学習する必要がある。

令和6年度 武蔵村山市立第三中学校 授業改善推進プラン　教科名 **国語**

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字、語句学習や話合い活動などを通して、語彙を身に付け、自分の考えを表現するために必要な基礎を向上させる。	**語彙力を身に付けることで読解や思考を深め、さらに自分の考えを的確に表現し、他者との意見の交流を積極的に行う態度を育てる。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア学習意欲は高いが、漢字［読み取り・書き取り］や語彙の基礎的な力が身に付いてないことが表現力の乏しさにつながっている。 イ思いや考えを発言や作文で的確に表現することができない生徒がいる。	ア漢字のワークを用いて、読み取り、書き取りの活動や聞き取りの活動を適宜設定する。 イグループでの活動［読み取ったことをお互いに説明し合う場面］を適宜設定する。	ア市学力調査【知識・技能】 目標値を上回り一定の成果が見られる。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 目標値を上回り一定の成果が見られる。 所見　授業における手だてが概ね成果に結びついたと言える。指導の継続が必要である。
第2学年	ア漢字や語彙の基礎的な力に自信がなく、積極的に他者と対話する意欲が乏しい。 イ思いや考えを的確に表現することができず、話合いが深まらない。	ア漢字の読み取り・書き取り学習時間と語句の意味調べ学習時間を増やす。 イグループでの話合い活動［意見や考えを伝え合う場面］を適宜設定し、話し合い内容の発表にも評価を与える。	ア市学力調査【知識・技能】 目標値を上回り一定の成果が見られる。 イ市学力調査【思考・判断・表現】 目標値を上回り一定の成果が見られる。 所見　【思考・判断・表現】において昨年度からの向上が見られる。指導の継続が必要である。
第3学年	ア習得している漢字・語彙を他の語句に結び付ける応用力が乏しい。また、語彙力も不足している。 イ筋道を立ててまとめる力が不足しており、多面的な視点に欠けている。	ア個々の習熟度に合わせて漢字学習を進め、年間を通して力が向上していくようにテスト等の取り組みを進めていく。 イ事前に構成を考える時間を設け、文章は必ず推敲する取り組みを繰り返し設定する。	所見 繰り返し、作文の推敲を行うことで、表現力に一定の効果を感じる。一方、苦手意識が拭えず、取り掛かること自体を避けている生徒が一定数いる。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：e ライブラリの活用をしている。反復させ知識を定着させるのに有効である。 2年：他者の考えや意見を共有したり、応用・発展に必要な情報を個々に獲得するしたりするのに有効である。 3年：文章構成を考えさせる、推敲を行う取り組みに対し有効である。	1年：本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の生かし方」に重点を置いている。 2年：本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の生かし方」に重点を置いている。 3年：単元の最初に全体の時間設定とともに毎時ごとのねらいもあわせて提示している。

令和6年度 武蔵村山市立第三中学校 授業改善推進プラン　教科名 数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基本的な計算技能を定着させるとともに、それを日常的に活用することのできる力を身に付かせる。	**問題を正しく認識し、正しい解法で解決する事のできる力を身に付かせる。また、粘り強く問題に取り組む姿勢を身に付かせる。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア基本的な計算技能が定着していない。 イ日常生活への利用や、文字、文章による状況説明がなされた問題に苦手意識をもっている。	ア帯活動として計算練習を行う機会を設ける。新規単元においても、既習事項と関連付けた指導を行う。 イ日常に関する問題や文章問題に触れる機会を意識的にもち、1問に対して深く掘り下げたり、考えを共有する機会を設ける。	ア市学力調査【知識・技能】 63.5%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 50.7%（平均正答率） 所見 計算については向上した。思考力に重点を置いて指導する。
第2学年	ア中間層が少ないため、上位層と低位層の基礎的・基本的な計算力に差がある。 イ基礎的・基本的な計算などを活用して、発展的な問題や日常的な問題に取り組む意欲が低く、粘り強く考える生徒も多くない。	ア毎授業開始時に計算練習を行う（既習事項）。 イ各章の利用の単元において、問題に向き合う時間を確保し、粘り強く問題に向き合う態度を養う。	ア市学力調査【知識・技能】 57.9%（平均正答率） イ市学力調査【思考・判断・表現】 32.4%（平均正答率） 所見 継続して、思考・判断・表現の能力向上を図る。
第3学年	ア学力の２極化があり、低位層では小学校の既習事項が身に付いていない。 イ全体的に、自身の考えを表出化することができない。	ア小テストを単元の中で複数行い、満点になるまで再テストを繰り返し実施する。 イレポート課題において、自身の考えを文章化させる。	所見 小テストの取組によって、低位層の知識・技能の定着をさせることができた。一方で、自身の考えを表出化するなど、思考・判断・表現の力を身に付けさせていく必要がある。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：演習問題の解答を端末上に掲載することで、家庭や授業内の演習時間等に自らの課題意識や学習状況に応じて問題に取り組めるようにする。 2年：「e ライブラリ」を使用し、自分に必要な問題の選択を行う。 3年：演習時間には、「e ライブラリ」、「副教材」、「先生プリント」、「デジタル教科書」の中から本人が選択し、分からないところは、先生に質問するだけでなく、周りの人と話合うことも可能にしている。	1年：課題の進捗状況や内容に関する不明点を周囲と共有する時間を意識的に設け、課題意識をもって主体的に学習に取り組めるようにする。 2年：各章の導入において、最終的に達成してほしい問題を提示する。また、振り返りカードを活用し、毎時間の学習内容を記録し、学習内容を把握する。 3年：進度カードを各章のはじめに配布し、各章の目標と各授業の目標を示し、見通しをもたせ、章の最後に振り返りを行う。

令和6年度 武蔵村山市立第五中学校 授業改善推進プラン　教科名 国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字を文章の中で使えるようになることや日常の中で使うことのできる語句の量の増加など基本的語彙力の向上。	**「読むこと」における、文章の内容を理解したり、内容をもとに考えたりする力の向上。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア小学校で学習した漢字を書けない・読めないなど、基礎・基本が定着していない生徒が多い。 イ叙述や描写に注目し、自分の意見と根拠をもって考えることが難しい。	ア新出漢字や文法、ことわざなど意味や文、使用場面を提示しながら学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ根拠となる記述に線を引かせ、それをもとに考えたことを説明する活動を行う。	ア市学力調査【知識・技能】 平均正答率 52.9% イ市学力調査【思考・判断・表現】 平均正答率 51.3% 所見　特に説明的文章の読解・情報の扱い方に課題がある。
第2学年	ア小学校で学習した漢字を書けないなど、基礎・基本が定着していない。 イ叙述や描写に注目しながら、事実と意見の関係や登場人物の心情の変化を捉えることができない。	ア新出漢字や文法、ことわざなど意味や文、使用場面を提示しながら学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ教材の中で重要な部分に線を引かせたり、考えたことを説明させたりすることを通して、文章の内容の理解を図る。	ア市学力調査【知識・技能】 平均正答率 54.0% イ市学力調査【思考・判断・表現】 平均正答率 45.4% 所見　漢字の書き取り・説明的文章の読解に課題がある。
第3学年	ア漢字検定5級レベルの漢字が書けない。 イ筆者の意見を踏まえた、自分の考えを書くことができない。	ア新出単語を書かせる。毎週、漢字の小テストを行う。 イ筆者の意見を見つけ、それをまとめさせる。	所見 課題文を読み、200~400 字の作文、小論文を書く力がついている。また、基礎的な漢字の書き取り、読み取りの力は向上した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：単元の意味調べ、課題等の共有を行う際に活用する。また、学習テーマに対して、生徒一人一人に合った形での学び、またその共有の際に利用する。 2年：学習テーマに対して、生徒一人一人が自分の個性や経験に応じて考えをまとめたり、互いの考えについてアドバイスし合ったりする場面などで活用する。 3年：単元の意味調べや、書いた文章の共有の際に活用する。	1年：第1時に必ず授業全体の見通しを共有する。単元の最後には、自己の学びを振り返る活動を実施する。 2年：単元の最初に生徒が自分で力を入れる項目を設定し、単元の最後に自分で振り返らせる取り組みを実施し、自分の力に合わせて取り組ませる。 3年：毎授業後に振り返りシートに取り組ませる。

令和6年度 武蔵村山市立第五中学校 授業改善推進プラン　教科名 数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な概念や原理・法則などを理解するととともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	**事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。**

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア正負の数の四則計算が定着していない。 イ具体的な場面で活用できない。	ア ドリルや課題で繰り返し同じ問題を出題する。小テストを何度も行い、計算の仕方を理解し、できるようになる達成感を味わってもらう。 イ 効率よく平均を求める活動など、入れ、数学的な技能を日常で使える活動を設定する。	ア 市学力調査【知識・技能】 平均正答率66.7% イ 市学力調査【思考・判断・表現】 平均正答率17.5% 所見 正負の数の四則計算では、特に、除法が定着していないことが分かった。
第2学年	ア基礎的な原理・法則を理解できていない。 →正負の数・文字式・方程式の計算ができない。 イ文章を式化したり、題意をくみ取りある数量を数や文字で表現することができない。	ア 授業の導入5分間を使い、毎回の計算練習を行う。 イ 授業内でことある毎に教え合いの時間を設け、数学的な表現をさせる機会を多く設ける	ア 市学力調査【知識・技能】 平均正答率 55.1% イ 市学力調査【思考・判断・表現】 平均正答率 35.1% 所見 毎時間の計算練習の成果は出ていて、計算力は高まっている。
第3学年	ア四則演算の計算速度が遅く、手数の多い計算処理に対処することができない。 イ文章題の内容と図やグラフを関連づけることができない。	ア 計算練習を課題として繰り返し実施する。短時間の小テストを実施する。 イ 授業で文章の内容と図やグラフとの関係性について、色マーカーを効果的に用いてまとめる指導を重ねていく。	ア 所見 正負の数から連立方程式までの計算は定着したが、展開、2次方程式の計算が定着していない イ 所見 指示することで文章と図を関連づけることができるが、生徒だけでは関連付けることができず、別な手だてを検討していく。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：個別最適な学びとして、eライブラリを用いて自分の苦手な単元を中心に学習したり、協働的な学びとして、自分の考えをスライドにまとめて他の人と共有したり、共同編集して考えを深めていく活動に活用する。 2年：学習ソフト「ネットレ」を活用し、（特に単元末には）タブレット学習の時間を組み込んでいる。 3年：関数の発展問題についてグラフ作成ソフトを用いて解決する。	1年：eライブラリを用いて、自分で訓練したい単元を選び、取りこぼしたところを振り返る。 2年：定期考査後に「やり直しレポート」を自由課題として年間5回提出。 3年：自分で練習したい単元や達成度が低い単元などを重点的に練習できる「自宅学習ファイル」の課題を実施する。

資料５

令和6年度

武蔵村山市立学校

学　校　評　価

令 和 7 年 3 月 21 日

武蔵村山市教育委員会

目　次

第一小学校 ---------- 1
第二小学校 ---------- 2
第三小学校 ---------- 3
第八小学校 ---------- 4
第九小学校 ---------- 5
第十小学校 ---------- 6
雷塚小学校 ---------- 7
小中一貫校村山学園 ---------- 8
小中一貫校大南学園第七小学校 ---------- 9
小中一貫校大南学園第四中学校 ---------- 10
第一中学校 ---------- 11
第三中学校 ---------- 12
第五中学校 ---------- 13

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第一小学校　　校長名：押本　純樹

【経営理念】「児童自らが学びに向かいながら、共に生きることに喜びを感じ、誰一人取り残さない学校を創造する」を実現させるために次の３点を柱とし、推進する。
（１）児童の自ら学びに向かう力を育てる学校（自立）　　（３）児童の思いや願いが実現できる学校（創造）
（２）児童の健やかな成長のために、共感し、協働する学校（共生）

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　高　橋　　勉
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年　４月２５日（木）
第２回　　令和６年　８月２９日（木）
第３回　　令和７年　２月１３日（木）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。	・自分から進んで授業に取り組んでいる児童が８０％ ・自分の子は、自分から進んで授業に取り組んでいると感じている保護者が８０％	１０２ ９３	A	昨年度まで校内研で話し合い活動を進めてきたが、どの授業でも自分の考えを持ち、原稿なしで伝えようとする姿勢が増えた。児童の主体的な学習を進める授業を意識した成果である。	まちづくり学習で、武蔵村山の一員として受動的ではなく、自ら切り拓いていく力を育てる主体的な児童を育成していく。「誰一人取り残さないで、全員を学びに向かわせる学校」を意識し、児童が主体的になる授業を実践していく。	・児童の向学心、保護者の温かい見守り、教員の日々の学習への熱い思いの結果の表れである。 ・児童に興味のもてるような進め方、話し方など工夫している。 ・児童一人一人に目を向け困っている子にも丁寧に声掛けをしており、意欲的に学習している。 ・先生方も子供たちに楽しんで学習に取り組んでいた。 ・12月の結果で児童の割合が保護者の評価を顕著に上回っている。 ・児童の評価で目標値が３%ダウンしているが、比較的良い評価だと思う。保護者の評価が３分の ２ 以上は良い評価かと思う。 ・学校経営方針が具現化され、学校の目標が統一されていたのが良い。	A
		ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。朝学習や家庭学習等を通して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	１１７	A	昨年度より数値が上回り向上の兆しが見え高評価である。授業で計算等の反復練習を入れ、基礎を意識した成果である。	読み書き計算は学習の基礎となるので授業中に効果的に行う。家庭学習や地域未来塾にも呼びかけて連携しながらさらに学力向上を図る。	・学童クラブでも宿題の取組をよくやっており、間違えた問題のやり直しもできて、習慣づいていると感じる。 ・昨年度より良くなっているのは、先生方の努力の成果と思う。 ・文字や数字の書き方が乱雑で、声をかけると丁寧に書こうとするが意識が薄い。	A
豊かな心の育成	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。	遊びを通して、みんなと関わる楽しさを知り、時にはあるけんかも一つの大事な経験として、相手を思う気持ちを養う。	・休み時間に校庭でみんなと仲良く遊んでいる児童が８０% ・自分の子が休み時間にみんなと仲良く遊んでいると感じている保護者が８０%	１０２ １０２	A	児童も教員も休み時間一緒にいつも遊んでいる光景が見られる。社会性を育てるためのコミュニケーションとしての大事な機会であり、遊びを通して思いやりの気持ちも育っている。	外遊びを推奨し、たてわり遊びにも重点を置き、どの児童とも仲良く遊べるようにする。遊びに重要な教育意義があるととらえ、学校経営方針の中心に置き、組織対応として継続していく。	・中休みに子供たちは元気な姿で自由に触れ合って、いたわる姿を目にする。和やかな時間である。大きな声を出して遊んでいる。 ・来校時に児童が元気に遊び、コミュニケーションをしている様子が見られる。園児にも気さくに話しかける優しい子が多い。 ・芝が開放されている時は、自然を感じながら体を使って遊ぶことができている。	A
		音楽集会の活動を通して、みんなと歌う楽しさを知り、互いの声を響かせ、豊かな情操を養う。	・音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っている児童が８０% ・自分の子が音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っていると感じている保護者が８０%	１１３ １０１	A	今年度は 110 周年音楽会もあり表現豊かに歌うことに重点を置いた成果である。音楽集会でも音楽専科が工夫して指導をし、歌詞に合わせたジェスチャーなども取り入れた。体育館に明るい歌声が響きわっており、児童全員が主体的に歌う姿が見られた。	来年度は学芸会を実施するが、音楽集会を計画的に実施し、月ごとの歌を設定する。帰りの会などいろいろな場面で歌声の響く学校にし、豊かな情操教育につなげていく。歌を通して、主体的に自信をもって自分を表現できる児童を育成していく。	・子供たちは音楽が楽しくてしようがないと感じているように思う。110 周年音楽会では、歌を交えたパフォーマンスに感動した。スマホ等禁止の思い切った判断より、児童の歌声、奏でる楽器の音が心に響くものになった。スマイルコンサートも感動した。自然と音楽をロずさんでいて活動に参加できている。音楽会も素晴らしい成果で良かった。 ・音楽会の評価は、学校運営協議会の中でも評価が高い。今後より良い活動を継続してほしい。 ・合唱、合奏全てにおいて素晴らしい取組が展開されている。 ・110 周年式典で児童が歌う姿を見て、表現力の豊かさが感じられる素晴らしい歌声だった。普段の音楽の授業でも意欲的に楽しんで取り組んだ成果である。	A
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の確立し、心身共に健康な体をつくる。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために健康的な生活習慣を送れた児童が８０% ・自分の子が継続して健康的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者が８０%	１０５ ９７	A	高評価であるが、「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」は、児童の健康、学力向上にもつながる重要な項目である。朝ごはんを食べてこない児童が減るよう呼びかけ、さらにポイントアップを図る。	健康な生活習慣づくりは常に意識させ、養護教諭中心に元気アップ週間を充実させ家庭での意識が低下しないよう指導をしていく。引き続き生活リズムカードを利用し、意識づけをしながら健康増進を図っていく。	・給食や学校生活をよりよくしようという取組がされている。 ・健康で元気いっぱいの子が多い。 ・朝元気に登校している様子をよく見かける。健康的に見えるので良い生活習慣を送っていると感じる。	A
		運動やスポーツへの興味・関心を広め、体力を高める活動の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	１００	A	今年度市内の「体力向上推進校及び優秀校」の２つの賞に表彰された。体力向上を意識した授業を実践した成果でもある。	体育の授業の質的向上と、市のドッジボール、駅伝、サッカー大会への参加や練習時間を確保しながら、さらにレベルアップを図る。	・市のスポーツ競技（ドッジボール、サッカー、駅伝など）に多くの児童が参加している。駅伝には ６ チーム参加し、優秀な成績を収めている。 ・体育の授業を見ると児童は先生の説明をよく聞いて理解しようとしている。取組む姿勢は良い。	A
まちづくり学習の充実	様々な人たちと関わり合いながら、自ら行動する力を養う。	各学年で生活科や総合的な学習の時間を通して、まちづくり学習の取り組み、その成果を発信する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答が、７０%以上	１０１ ６１	A	今年度より市の施策であるまちづくり学習を校内研究のテーマにし、全学年、学級で市役所の環境課、防災安全課や商店街、伝統工芸など地域の方の協力を仰ぎながら、児童の課題に合わせた主体的な授業を実施した成果である。	学年が上がり児童がまた違う視点で課題を見付けた時も、今年度の連携先をもとにさらに地域への協力を仰ぎ、児童の学びをさらに充実させたものにしていく。児童に武蔵村山の将来を担う一員としての意識をもたせる。	・市や地域とのかかわりを通して、児童の郷土愛、創立記念への深いつながりが見られた。 ・４年生のまちづくり学習で、災害時避難所での高齢者支援について実際の高齢者とふれあい、耳を傾けて真摯に対応していた。 ・ヤギの Ｔ シャツを作り、お祭りで販売するなど、町の人との関わりで自分たちのことも発信するなど、地域との関わりの大切さを学べていた。 ・学運協からの報告内容からも良い取組をしていると感じた。 ・保護者には分かりづらい。保護者と情報共有をしながら実施する必要がある。さまざまな体験を通して自分たちの地域を知り、良さや問題点を見出し、地域の形成者の一人として主体的にかかわっていこうとする態度を培う学習、他校ではゼロカーボンシティを取り上げていた。	B
信頼される学校づくり	日常の学校生活の中で規範意識を高めながら、より良い生活環境や人間関係を構築する。	５つの生活習慣（校帽、挨拶、靴のかかとを踏まない・揃える、イスを引く、水道の蛇口は下にする）にこだわり、年間を通して定着を図る。	・５つの生活習慣が身に付いている児童が８０% ・自分の子に５つの生活習慣が身に付いていると感じている保護者が８０%	１１６ ９２	A	朝会での校長講話や美化委員会が靴そろえ調査を毎日行い、全校に啓発している成果である。この生活習慣が将来自立していく上で、社会にどうつながるのか意識させ、１００%達成を目指す。	朝会講話、日頃の担任の指導など学校生活全体を通して、卒業後も人として必要な礼儀を指導している。校帽の着用が交通事故防止につながった事例なども伝え校外に出ても適応できるよう引き続き指導していく。	・基本的なことを守ることで、児童の自信や自尊心向上にもつながり、人間性を育んでいるように感じる。 ・学校を訪問した時によくできているのを確認している。 ・挨拶を始めとした立ち居振る舞いからもしっかりした生活指導がされている。	A
	誰一人取り残さない学校を創る。	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている児童が、85% ・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている保護者が８５%	１１０ ９１	A	児童の意識調査でも教員が親身になって話を聞いてくれる項目のポイントが高い。「誰一人取り残さない学校」経営の視点からも、善悪の判断ができる児童育成のため、寄り添いながらもだめなことはだめときちんと指導する意識が徹底されている成果かと考える。	指導をする前には実態に応じて寄り添いながら児童の思いを理解しなければ始まらない。問題行動の表面だけではなくその行為をしてしまった児童の思いを理解した上で、一緒に改善していく姿勢で指導をしていく。	・一小の経営理念を推進するためのベースとなる項目で児童、保護者からも高い評価、これからも大事にしてほしい。 ・児童と先生の距離感が適切に保たれ、良い環境で育っていると思う。 ・教員が熱心に児童と関わり、安心して過ごせていることが分かる。保育園との情報交換でも発達の凸凹がある児童に対しての理解が高く、子供の気持ちも受け入れながら丁寧に関わってくれているように感じる。 ・学校評価で児童から高い評価を得ている。教員と児童の関わりも良い。 ・心を耕す実践が具現化され、取り組めた１年だと感じた。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第二小学校　　校長名：井口　　洋

【経営理念】
「児童と教師が自分らしく生き生きと学び、共に成長し、一人一人が明るく輝く学校」を目指し、その創造のために以下の点を掲げ、推進する。
（１）児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして、伸びる喜びをつかむ。
（２）確かな自尊感情をもち、周りの人を大切にする。（自分が好き。みんなが好き）
（３）保護者・地域との協働により、児童の安心と安全が、保障される。

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】加藤　浩一
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年５月３１日（金）
第２回　　令和６年９月　６日（金）
第３回　　令和７年１月３１日（金）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	児童にとって分かりやすい授業を展開し、学習内容の確実な定着を図る。	日常的に語彙を豊かにするための取組を行い、考えを伝え合う場面を増やす。	・自分の考えを表現し合うことが楽しいと答えた児童の割合・85% ・自分の考えを伝え合うことができていると感じている保護者の割合・85%	70.3 75.3	B	７０%以上の児童が肯定的に捉えている。７月よりも１２%低くなってしまったが、学習が進むにつれて難しさやつまずきを感じた児童がいるのではないかと考える。	児童が表現をすることに対して前向きに取り組めるように指導の工夫をしていく。音読などの宿題で読み方の工夫や、普段の生活の中で自分の思いを言葉で表現していく機会を増やす。	児童が目的意識をもって学習に取り組むことができている。引き続き基礎学力の定着を図ってほしい。	B
		チャレンジタイムや家庭学習（宿題）等を活用し、反復練習（読み・書き・計算）を強化していく。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	113.9 85.3	C	国語は前年度の平均正答率を上回ることができたが、算数は上回ることができなかった。どちらの教科も全国平均を大きく下回っているため、学習内容の定着を徹底していく必要がある。	チャレンジタイムの充実を図るとともに、家庭でしっかりと宿題を見てもらえるよう、家庭に協力を求めていく。	学習内容を定着させる上で、家庭での反復練習は、大切である。さらに家庭と連携して取り組んでほしい。	B
豊かな心の育成	「特別の教科　道徳」の授業を充実させる。読書活動の充実を図る。	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫を図りながら実践をする。また、「考え、議論する」道徳を展開し、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	・自分の考えや他者への思いを深めることができた児童の割合・85% ・道徳の授業を通して、考えを振り返ったり、これからのことを考えたりしていると感じている保護者の割合・85%	78.2 62.4	B	「よくあてはまる」、「あてはまる」と答えた児童は８割弱、保護者は ６ 割程度である。道徳の授業で考えたことを生かし、日常で様々な場面で、その状況に応じて考え、判断ができる児童を育てていく。	児童が自分事として考えられるように、考える時間に児童に声かけをしたり、授業の工夫を行ったりしていく。 道徳授業地区公開講座だけでなく、道徳の様子を保護者に発信していく。	道徳の授業で学んだことを生かして、規範意識を向上させてほしい。引き続き丁寧な指導を望む。	B
		ブックトークや読み聞かせ、貸し出しカード等の工夫を図り、学校図書館の本を年間50冊以上借りるとともに、心に残った本を３冊以上あげられるようにする。	学校図書館貸出数、50 冊以上を達成し、かつ、心に残った本が３冊以上ある児童の割合・85%	74.1 52.6	C	すすんで本を読む児童が増えるよう、今後も図書の時間における読み聞かせや本の紹介を通して本に親しむ機会をつくることや本を読む楽しさを伝えていく。	学校司書と図書担当教員の連携を深め、アンケートをもとにした選書をするなど、図書委員会の活動の充実を図っていく。	本に親しみ、読書をすることで、さまざまな楽しみがあるので、読書の習慣が身に着くように願っている。	B
健やかな体の育成	基本的生活習慣の確立を図るとともに、体力の向上を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために実践できた児童の割合 ・自分の子が継続して基本的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合	60.4 82.4	B	各家庭の継続した取組の結果、よい成果が出ている。今後も保険の授業や給食指導等で「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。	基本的な生活習慣の定着が図られている。保健の授業や給食指導等で「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。	家庭と連携し、生活リズムの乱れをなくす指導を望む。	B
		個や能力に応じた場の設定等、体つくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	70	B	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合は70%だった。今年度より実施した〇〇遊びやトライ月間により、これまで以上に運動に親しむ児童が増えたと考える。	授業の中で「できた」や「成長した」と児童が感じられる授業づくりを継続していくとともに、休み時間も運動を楽しめるようにしていく。	引き続き、年間を通じて体力づくりの取組を充実させてほしい。	B
まちづくり学習	体験活動や交流学習に取り組む	みかん農園、村山大島紬などに関するまちづくり学習や、縦割り班活動や高校生との交流に取り組み、自尊感情を高める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	83.5 81.2	A	８０%以上の児童・保護者がア「よく当てはまる」やイ「当てはまる」に回答したことから、多くの児童が体験活動を楽しみながら、意欲的に活動に参加できたことが読み取れます。	来年度も児童が自分たちの住む地域に興味・関心をもっていけるような学習活動を計画していきます。	まちづくり学習を通して、自尊感情を育てていくために、おみこしやお囃子などの伝統行事に参加することは重要である。	B
安心安全な学校	安全・安心な学校づくりを行うとともに、適時適切な情報発信に努める。	安全指導計画を基に避難訓練や登校班指導、交通安全教室、セーフティ教室等の安全教育を充実させる。	・危険を予測し、回避できる児童の割合・85% ・自分の子が危険を予測し、回避しようとしていると感じている保護者の割合・85%	88.8 72.2	B	毎月の避難訓練や安全指導の徹底により、８ 割の児童が「自分で避難することができる」と回答している。どのような場所や状況でも自分の身を守れるようにしていく。	保護者や地域、関係諸機関と連携し、児童の安心と安全を保障していく。	登下校の安全については引き続き指導してほしい。	B
		保護者・地域に必要と思われる情報を適宜発信する。	学校からの情報発信に満足している保護者の割合・80%	70.9	B	「学校からのお知らせや HP 等によって、学校の取組や児童の様子が分かる」と回答した保護者が７割を超えた。	ホームページ、X、学校配信メール、各種連絡ツールを適切に運用し、情報発信を充実させていく。	学校や児童の様子がよく分かる。	B

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第三小学校　　校長名：佐々木　琢

【経営理念】
子供も大人も共に成長する学校を指針として、地域・保護者と協働して、確かな学力、健全で豊かな心と体の育成を目指す。

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　宮下　秀邦
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年１２月１９日（木）
第２回　　令和７年　１月１６日（木）
第３回　　令和７年　２月２０日（木）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	基礎的・基本的な知識・技能の習得	・朝学習、家庭学習等において、一人１台端末（eライブラリ等）を活用したドリル学習を継続的に実施する。 ・東京ベーシックドリル（算数）の診断テストを実施し、個々の課題に応じた学習を行う。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている	国語 118.6 算数 92.3	C	２教科の到達度は 105.7%だが、算数が前年度を下回っており課題ととらえている。特に算数は、「数と計算」領域における基礎的・基本的な知識や技能の定着が不十分であり、基礎・基本の定着に向けた取組が必要である。	モジュールを活用した学習等を通し、児童に日常的な学習習慣を身に付けさせ、基礎的・基本的な学力の定着を図っていく。	・一教科や特定の領域に絞って継続的な取組を行うことが効果的である。 ・一人１台端末に頼らず、読む・書くなどのアナログな活動を通じて脳を刺激することが学力の定着につながる。 ・前年度の結果を上回ったのはよかった。	B
	主体的に学習する態度の育成	・授業や家庭学習等で ICT 機器（一人１台端末や提示用スクリーン等）を効果的に活用する。 ・授業や様々な活動において、目標設定、選択の機会を設定する。	学校評価アンケートの「ICT 機器等を効果的に活用し、児童が学習活動に主体的に学ぶように努めている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	90.2	B	到達度は 90.2%で概ね理解をいただいていると捉えている。「タブレットによる宿題や授業などでの ICT の活用により、子供の学習意欲が高まっている」などの意見をいただいた。	各教科の学習のねらいに迫る効果的な場面で一人１台端末や ICT の活用を行う。家庭学習において、一人１台端末の活用をさらに進めていく。	・意欲的に授業に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きい。 ・児童の興味・関心を高めるために、効果的な機器の利用を一層進めてほしい。	B
豊かな心の育成	規範意識及び社会性の向上	・「きまりを守ること」の意義について理解を深める指導をし、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させる。 ・全ての教職員が挨拶を実践し、保護者や地域とも連携して、挨拶の習慣の定着をめざす。	学校評価アンケートの「きまりをまもることの意義について理解を深める指導や教職員が率先して挨拶するなど、挨拶する習慣の定着に努めている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	76.6	C	到達度は 76.6%で課題と捉えている。「きまりを守れない子が多いので、きちんと指導してほしい」「挨拶運動の取組はよいと思う」などの意見をいただいた。	教職員の共通理解のもと、発達段階に応じた指導の重点を決め、基本的な生活習慣が徹底できるように指導していく。きまりやルールの意義について理解を深める指導を行い、きまりやルールを当たり前に守る意識を育てていく。	・きまりを守れないという意見が寄せられている以上、何らかの取組が必要。高学年に指導的な意識をもたせる場面を設定してはどうか。 ・「きまり」がなぜそうなったのかを考えさせると、多少はきまりを守ることの意義を学習できると思う。	B
	児童一人一人を大切にした教育の推進	・呼名の仕方、掲示物等、児童一人一人を大切にした教育を全校あげて実践する。 ・ふれあい月間において、いじめについて児童が主体的に考える取組を実施する。 ・いじめアンケート等を活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見の徹底を図る。	学校評価アンケートの「児童一人一人を大切にした教育活動を実践するとともに、いじめや不登校の未然防止・早期発見に努めている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	79.3	B	到達度は 79.3%で概ね理解をいただいていると捉えている。「定期的にアンケートを取り、未然に対応してくれていると感じる」「何かが起きた時の学校と家庭との連携が取れていない」などの意見をいただいた。	アンケート等を活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見に努め、組織的に対応するとともに、家庭に事実や指導内容を正確に伝えることで、学校と家庭の連携強化をめざす。	・いじめは、学校だけでは解決できないので、家庭との連携が必要である。 ・些細ないじめでも先生がしっかりと話を聞いて対応してくれている。不登校も一人一人に合った対応ができている。 ・いじめ発生時の家庭への情報伝達が遅い。平時からの情報共有が望ましい。	B
健やかな体の育成	健康の増進と体力の向上	・体力テストにおいて、個々の目標を設定するなど、主体的に活動に取り組むよう工夫する。 ・丘の上スポーツタイム等の体育的活動の充実を図ると共に、体力向上に向けた授業の改善を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	98.1	B	到達度は 98.1%で、概ね良好であると捉えている。一方で、総合評価「C」未満の児童も４割程度いることから、より一層体力向上に向けた取組が必要である。	体育の授業改善を進めるとともに、丘の上スポーツタイム等の体育的な活動を継続的に行うなど、児童の日常的な運動習慣が身に付くようにしていく。	・体育や水泳等、運動を伴う活動が少ないと感じる。 ・丘の上スポーツタイムは、充実している。読書と同様、表彰等があるとよい。 ・身体を動かす楽しさを体感させながら、伸ばしていると感じる。	B
	学校保健活動や健康課題の情報発信	・生活リズムチェック等を通して、児童の健康課題を把握する。 ・毎月の保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知を行う。	学校評価アンケートの「児童の健康課題の把握に努めるとともに、保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知に努めている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	103.1	A	到達度は 103.1%で高い理解をいただいていると捉えている。「保健だよりが工夫されていて、毎回楽しく拝見している」「生活リズムチェックは、家庭の状況によっては、きちんとできないことがある」などの意見をいただいた。	本校の健康課題について、引き続き保健だよりや保護者会等の機会に結果を周知し、より一層保護者への啓発を強化する。	・学校として、必要な情報提供は十分していただいている。ただ、保護者の理解や危機感が足りていないように思う。 ・学年が上がるにつれ生活リズムが崩れやすくなる。引き続き取り組んでほしい。	A
まちづくり学習の充実	まちづくり学習（ゼロカーボンシティチャレンジ教育）の推進	・第三中校区で取り組む環境教育（ゼロカーボンシティチャレンジ校）の推進。 ・子供の声を大切にした学びの展開。 ・地域の商業施設や、農園等と連携を図り、校内から市内へと活動の幅を広げる。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	83.0	B	到達度は 83.0%で概ね理解をいただいていると捉えている。「子供たちの考えを主体に、という学習活動が展開されていると感じる。」などの意見をいただいた。	保護者や地域の方々・農園や商業施設との連携・協力のもと、子供の声を大切にしたまちづくり学習を展開する。学校・学年だより・学校公式 X を活用し、さらにまちづくり学習の認知度を向上させる。	・子供が自らいろいろ考え提案し実施していく学習はとても良い取組だと思う。 ・保護者が地域のことを知らないケースが多い。工夫してそれにつながるようなことができるとよい。 ・児童が地域に出向くなど、意欲的に学習に取り組んでいる。	A
	地域と共に歩む学校（保護者・地域との連携）	・地域未来塾開始から４年目、地域の人材（学生）を活用した事業の充実を図る。 ・学校運営協議会や三中校区教育推進協議会を中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図る。	学校評価アンケートの「学校運営協議会などを中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図っている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	92.1	B	到達度は 92.1%で概ね理解をいただいていると捉えている。「グリーンサポーターの活動を楽しみにしている」「PTA や青少対活動は、時代に合った見直しが必要」などの意見をいただいた。	学校運営協議会を核とした PTA や青少対、グリーンサポーター等と連携し、児童の健全育成に繋がる活動を計画していく。また、ねらいや内容を精選し、持続可能な行事を計画していく。	・保護者の方を含め、地域とのつながりの強さが魅力の一つだと思う。 ・保護者が受身ではなく、積極的に行事を運営する側に回ってもらえるような働きかけが必要である。 ・よりよい行事をめざしてこれからも学校とともに頑張っていきたい。	B
学校裁	情報発信力の強化	ホームページ、学校公式 X（旧ツイッター）、一斉配信メール等を通じて、リアルタイムな情報発信に努める。	学校評価アンケートの「連絡メールやホームページ、学校公式 X 等で教育活動の様子を伝えるなど、積極的な情報発信に努めている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	105.9	A	到達度は 105.9%で高い理解をいただいていると捉えている。「X の投稿で、学校生活の様子がよくわかりありがたい」「学級ごとのメール配信があるとよい」などの意見をいただいた。	ホームページや学校公式 X、校支援メール等を今後も積極的に活用し、学校の教育活動をリアルタイムに発信していく。「わからない」の回答率が高かった項目に重点を置いて情報発信を行う。	・高頻度で学校やイベントの様子を配信していてよい。 ・情報発信力は向上していると思う。 ・メール等の配信によって、子供がお便りをなくしても親がフォローできるので、お願いしたい。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第八学校　　校長名：牧　一彦

【経営理念】

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　井上　一弘
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　令和６年　７月１２日（金）
第２回　令和６年１２月２０日（金）
第３回　令和７年　３月　７日（金）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「全国学力・学習状況調査」並びに本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析する。	・東京ベーシック・ドリルの内容の、70%以上の定着を図る。	東京ベーシック･ドリル診断テストＣにて、全児童の正答率が70%を上回っている。	39	C	宿題や授業内容の工夫が成果を上げ、児童の前向きな姿勢が見られる。一方、学習内容の確認が不十分で、５割程度の定着に留まっている児童が多い。正答率が低く、児童のやる気と学習内容の定着にギャップが見られます。	定期的な小テストを実施し、理解度を確認したり、授業の最後に復習の時間を設けたりして、学んだ内容を再確認する。	年々評価が落ちてきている。やる気があるのに結果が出ないので、やり方等については今後検討していく必要がある。なるほど塾は継続していけたら良い。	C
		・期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	48	C	期末テストを実施することで苦手な部分が明確になり、２学期の平均点が１学期より微増した。テスト勉強に取り組む児童が増え、再テストに合格しようと努力している姿が見られる。一方、家庭学習の習慣が身に付いていない児童が多く、児童間の意欲に差が見られる。	保護者会等で保護者に家庭学習の重要性を説明し、協力を強くお願いする。家庭学習の成果を評価し、児童のモチベーションを高めるように努める。	結果がスムーズに伸びなくても、学習は積み重ねが大切。小テストから目標をたて、大きな目標の期末テストで達成感を味わえるようにすると良い。	B
豊かな心の育成	・いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進する。 ・あらゆる偏見や差別をなくすため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導する。	・週１回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ・月１回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」 で、いじめ認知の確認と報告・協議を行う。	児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が70%を上回っている。	84	A	週１回の生活指導夕会や月１回の特別支援校内委員会で、いじめの認知確認と報告・協議を行っている。保護者アンケートの結果、「分からない」と回答する割合が高く、保護者への啓発が必要である。	保護者会等を通じて、いじめの認知と対策について情報提供を行う。いじめ防止の意識を高めるために、児童へ再度指導する。定期的なアンケートを実施し、いじめの実態を把握する。	児童数が多いので大変な事が多いと思うが、細かく対応している。「いじめをしない優しさ」「いじめをとめる勇気」を育てたい。	A
		・「挨拶の励行」を推進する。（随時） ・【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ・校外学習を徳育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	・児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が 70%を上回っている。 ・教員の自己評価において、肯定的評価の割合が７0%を上回っている。	92	A	徳育科のみならず、日常生活でも礼儀作法の指導を行い、教師自らが手本となって進んで挨拶をしている。一方、挨拶ができる児童とできない児童の差が目立ち、意識の向上が必要である。	授業の中でロールプレイを取り入れて、挨拶や礼儀作法を練習し、実践的に学べるようにする。教師が手本を示すことを継続し、日常生活の中で礼儀作法を意識させる活動を増やす。	以前に比べて最近は挨拶を返す児童が少ない。目を見て、笑顔で声をかけられれば、お互いが気持ちよくなる。	B
健やかな体の育成	児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進する。	・検診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ・「ほけんだより」を発行して、保護者へ健康の保持増進について啓発する。	児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が７0%を上回っている。	67	B	検診の際に保健講話を行い、健康意識の向上を図ったり、「ほけんだより」を発行して保護者への健康啓発を行ったりしている。しかしながら、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない児童が多く、引き続き指導が必要である。	定期的に早寝・早起き・朝ごはんの重要性を確認する。保護者に対しても健康に関する情報を提供し、家庭での指導をお願いする。保健講話や「ほけんだより」を通じて継続的に啓発を行う。	早寝できない理由は、家庭内の影響が大きいので、学校としてはよくされていると思う。	B
		・中休みの外遊びの奨励、長縄集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ・ＯＪＴタ会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「Ｃ」以上の割合が６０%以上又は総合評価「Ｃ」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	78	B	中休みなどでは積極的に外遊びを推奨し、体を動かす習慣が身に付くように指導している。外で遊ぶ児童が多い一方で、教室から出ても昇降口付近で集まって話をしている児童が見られる。	外遊びの推奨を継続して行う。昇降口付近で集まっている児童については、教員から個別に声を掛けて、外遊びをするように促す。	身体を動かす機会をより多く作る工夫が素晴らしい。	B
まちづくり学習の充実	保護者や地域の方と連携・協力し、市の発展や課題について考え、問題解決に取り組む地域に根差した探究的な学習を通して、地域を知り、地域を大切にする思いを育むとともに、主体的に考え、自ら行動する力や他者と協働しながら挑戦する力等の育成を目指す。	・地域人材を活用した授業を積極的に行うことで、地域との関わりを感じさせ、地域の一員として生きていこうとする態度を養う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	69	B	地域の方々と連携し、ふれッチャクラブや水田学習などを通じて教育活動を進めている。保護者アンケートでは肯定的な評価が多いものの、「分からない」と回答する割合もあり、保護者への啓発が必要である。	ホームページや SNS 等を通じて活動の成果を保護者や地域に発信する。地域行事にも参加し、地域とのつながりを深めることに努める。	「八小お手伝いクラブ」により学校行事が円滑に進んでいる。学校と縁の無い地域の方に認識していただけるような方法が必要。	A
		・主に【総合的な学習の時間】を活用して、地域の魅力を発信したり、社会科とも関連させたりしながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行う。		62	B	総合的な学習の時間を活用し、地域の魅力を発信しながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行っている。まちづくり学習を十分に行うためには、準備や事前の調整が必要で、教員の負担が増えることが課題である。	地域の専門家や外部講師を招き、学習内容を充実させたり、学習の成果を発表する場を設け、児童の達成感を高めたりする。まちづくり学習のための準備時間を確保し、教員の負担を軽減する。	本来なら地域で担う事を学校が肩代わりしている。地域の情報を多く得られるような協力者が必要。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第九小学校　　校長名：吉成　かおる

【経営理念】
・夢や目標の実現に向けて、粘り強く取り組み、自らの道を切り拓く子供を育てる学校
・自己を確立しつつ、自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　石橋　修
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和７年　２月１４日（金）
第２回　　なし
第３回　　なし

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	・児童の学ぶ意欲の向上と確かな学力の育成	児童の生活に関連させた教材の工夫、児童の「できた、分かった」を引き出す分かりやすい授業、基礎・基本の繰り返し学習の３点を充実させる。	児童アンケートによる授業への肯定的評価で、到達度評価を実施する。	94	A	「授業が分かりやすく、楽しいか」という問いに肯定的な評価をした児童の割合は 89%だった。否定的な評価をしている児童が約６%程度いるのも事実であり対策が必要である。	探究的な活動をとおして、自分なりの問題を設定し、解決の見とおしをもつ、情報を比較・分類する、表現・改善する等の学習姿勢を身に付けさせる。こうした活動を継続していくことにより、思考力・判断力・表現力を育成していく。	・「授業は分かりやすく楽しいか。」の質問に、約一割の児童が「そう思わない。」との回答とのこと。やはり「できた、分かった。」と思えていないのですね。根気よく基礎、基本の繰り返し学習をしていくことが大切ですね。 ・アンケートとること賛成 ・児童の生活に関連させた教材の工夫、分かりやすい授業、基本の繰り返しはとてもいいです。 ・学校の授業が楽しくわかりやすく勉強している。 ・アンケートから学校が楽しいと回答が９割を超えているのはいいことです。あまり楽しいと思わない児童についての対応ついては協議会でも取り上げていただきたいところです。 ・授業が分かりやすく楽しい。」に否定的アンケートが１１%あった。あと一歩１０%未満を目指していただきたい。	B
	・基礎的基本的な学習内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成	①視覚に訴える教材提示　②自分の考えを書く　③互いの考えや意見を交流し学び合うの３点に対する方策と時間の確保により思考力・判断力・表現力を育てる。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	68	B	市学力調査では、到達目標としていた数値には届かない結果となった。「授業が楽しい」という児童の気持ちを大切にしながら、今後も漢字や計算等の基礎的基本的な学習の定着と自ら課題に取り組む意欲の育成を目指す。	全児童が、「分かる」「楽しい」と感じられるような授業展開を工夫していけるよう、担任だけでなく学年で授業の進め方や児童一人一人の学習の習熟度やつまずきを的確に捉え、支援していく。	・今年の大学入試の共通試験でも問題が長文で読み返す時間がなかったという人が多かったとのこと。やはり全科目について読解力は大切です。読書習慣を付け思考力判断力を養うことが将来に向けて本当に大切だと思います。 ・班で考える時のまとめが各班組み方等の工夫が大切である。 ・互いの考えや意見を交流、自分の考えを書くなどとても良いと思います	A
豊かな心の育成	安心・安全で、児童が集団の中で自分のよさと力を発揮し、前向きな意欲をもてる学校生活の実現	いじめ防止に関わる授業、「学校生活アンケート」、都スクールカウンセラー面談、縦割り班活動による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	児童アンケートによる学校生活に対する肯定的評価が、前年度値を上回っている。	上回り率99	B	「学校生活が楽しいか」という問いに肯定的な評価をした児童は 94%であり、今年度も多くの児童が楽しく過ごしていることが分かった。否定的な児童については原因を取り除く必要がある。	学級経営の充実、校内委員会やケース会議による早期対応、ふれあい月間の実施、ＳＯＳの出し方教育の実施、スクールカウンセラーの活用等により児童一人一人のニーズに応じたきめ細かな対応をしていく。	・何か困ったときに先生や家族に相談しようと思わないという児童が２割近くいるというのに驚きです。取組は大変良いと思いますので何でも話せる雰囲気を作っていきたたい。 ・今の時代はスマホを持つ時代ですから、見えないところでいじめにつながったことが昔の子供にはあったそうです。 ・いじめについて９８%の児童がどんな時でもやってはいけないと思っている。３%があまり思わないと回答しているのでどうしてそう思うのか理由を聞いてみたいところです。 ・やって良いことといけない事、いじめの問題などを「自分で考えて」行動する方向に導いてくださった事はすばらしいし成果があったと思う。	A
		縦割り班活動（清掃、遠足、集会）などの異学年交流を通して、役割や責任をもち、集団に貢献することで自己有用感を育む場を作る。また、他者に感謝する心を育てる。	児童アンケートによる縦割り活動への肯定的評価が、前年度値を上回っている。	上回り率101	A	今年度は特に「自ら考え、教え合う」を重点的に指導した。児童の肯定的評価は 90%で異学年交流を自ら推進する力を付けてきていることが分かった。	縦割り班活動（清掃、遠足、集会）等の異学年交流をとおして、望ましい集団活動を築き、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていけるようにしていく。	・縦割り班活動では６年生がよく頑張っていたとのことで喜ばしいことです。これは次の子供たちに必ず引き継がれることなので無言のうちに感謝の心も育っているのでしょう。 ・上下関係も時に指導が必要かもしれません。 ・この交流はとても良いと思います。こういうことは小学校時代でないとできません。 ・自分たちで考え教え合っている ・たて割り班は９小ならではと思うので引き続き取り組んでいただければと思います ・縦割り班行動等、自分たちで考え教え合いながら活動できたと児童の９割が評価しているところは、この活動を児童も良い活動だと自認していて良い社会性を育んでいる。	A
健やかな体の育成	・丈夫な体とたくましい心の育成	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、体育の時間は児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	教職員による取組評価で、前年度値を上回っている。	100	A	児童自身が「今日の体育学習で、どんなことに取り組むか」というめあてをもたせる指導を目ざしてきた。教職員の取組評価は、８０%程度で評価は良い。	体力テストの結果に基づき、運動や保健に関する授業や運動会等の体育的行事や各種取組を効果的に活用し、更なる体力向上と生活習慣の確立を図っていく。縄跳び、持久走は強化週間を設ける。	・取組は大変良いと思います。児童自らが課題意識をもつまでは到っていないけれど、指導によって必ず芽えてくると信じます。 ・これは難しい課題ですね。体育が好きな子と嫌いな子がいますよね。 ・すすんで体を動かしているとの回答が９割近いので目標は達成できているのではと考えます。	A
	・健康な体を意識させる日常的な指導の充実	休み時間の全校外遊びの奨励、なわとび週間、持久走週間の取組、体育委員会による休み時間の体育倉庫内にある用具の貸し出し等を実施する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	100	A	中休みにはクラス遊びによって全員が外に出る機会を設けるクラスも多かった。また、休み時間に体育倉庫内にある体育用具を貸し出し、様々な運動ができるようにした。	毎月の保健だより等をとおして保護者の方に情報をお知らせし、連携しながら児童が自らの心と体の健康を保持増進しようとする意欲を高めていく。来年度は、目標値を見直す。	・なわ飛びは大変良い取組だと思いますが、あまり積極的ではないとのことで少し残念です。地味で楽しくないからでしょうね。楽しく盛り上げっていけると良いですね。 ・休み時間の全校外遊びは大事ですよね。家から見るととても楽しそうでいいですよね。 ・休み時間にすすんで運動している。 ・休み時間には校庭をいっぱいに使って活き活きと遊んでいる児童が多く先生方も積極的に声かけをする様子が見えた。	A
まちづくり学習の充実	・生活科・総合的な学習の時間をとおして、自ら課題を見付け、協働的に解決していく学習を進める。	各学年において、地域を知り、地域を大切にする課題について考え、主体的に協働的に解決に取り組む探究的な学習を実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	69	B	今年度、最も力を入れて指導を重ねてきた項目で、教員の取組評価は 100%である。保護者の肯定的評価は 69%、否定的な評価は 17%、「分からない」が 14%あった。	地域の人材・施設・自然環境を積極的に取り入れた体験的な学習をとおして、地域を大切にしたいという思いを育み、地域のために自分たちができることを考え、自ら行動しようとする意欲と態度を育成していく。学習の様子をもっと発信していく。	・今年はもち米作りから、もちつきまで他校ではできなかったことをやり遂げたとのこと、本当に地域の人たちや皆さんに頭が下がります。 ・まちづくり学習はとても良いと思います。小学校時代でないと取り組むことが大変になると思うからです。 ・地域調べで知って問題点や解決に向けた取り扱いをしている ・地域とのつながりは大事ですが、このところ考えられないような事件が多いので子供を守ることを優先すると、外部との関わり簡単にはできなくなってきてどのような活動を取り入れてくか難しいですね。保育園も同じです。 ・児童アンケートで「やってみたい。」ことを「自分たちで考え」行動できたかで１９%がそう思わないという結果だったが、学校内から地域に目を向けることは、低学年では難しいのかもしれない。ゴミ拾い運動等、小さな事でも地域の一員として活動する意義や喜びをもっと感じていけばよいのかもしれない。	A
		全ての学年で、地域の人材・施設・環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を継続的に実施する。	教職員による成果評価が、前年度値を上回っている。	上回り率100	A	全ての学年で、地域の人材・施設・環境等を活用した体験的な学習を実施し、目ざす目的に向かって地域の方々と協働的に解決する取組ができた。	地域の人材・施設・自然環境を積極的に取り入れた体験的な学習をとおして、地域を大切にしたいという思いを育み、地域のために自分たちができることを考え、自ら行動しようとする意欲と態度を育成していく。	・将来の町づくりや地域貢献に必ず役に立つ人材が育っていくことでしょう。これもとても良いことだと思います。自分達の住んでいる場所を知ることは大事ですね。 ・一年生と保育園年長児の交流を企画していただきありがとうございます。今後も活動をより充実していきたいので一緒に企画を考える時間がもう少しとれたらと思っています。	A
学校裁量	地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	情報提供手段として一斉メール（tetoru）や学校Ｘ（旧Twitter）の運用強化。月に４回以上の HP 更新と学校・学級だよりの充実を図る。	保護者アンケートによる肯定的評価が、前年度値を上回っている。	上回り率98	B	今年度は３学期にも授業参観の機会を設け、教育活動の発信に努めた。学校 HP にきこえと言葉の教室専用のバナーを載せて取組が伝わるように努めた。学校ホームページの更新は努力を要する。	来年度も、情報提供手段として、一斉メールや学校Ｘ（エックス）を活用し、タイムリーな発信と HP 更新を心がけていく。	・九小は、よく更新されているとの評価もあり、大変良いと思います。大変ご苦労さまですが今後ともより充実していくといいですね。 ・今年度よりより地域の方との交流がより進んだ感じがし。今後も幅広くお願します。 ・アンケート大切です。 ・これは良いことです。 ・情報提供手段について頻度等ちょうどいいと思います。 ・保護者や地域と学校の関係は良好に保たれていると感じる。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第十学校　　校長名：今井　一馬

【経営理念】

「子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が育ちを実感できる学校」
ア　児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつかむ。　・意欲をもって学ぶ力と学習に責任をもつ感覚を育てる。
イ　朗らかな気持ち（心）で、自分も他人も大切にする。（相手の心をよむ）　・自分のよさを知り、友達のよさを実感する。
ウ　体力向上の活動にすすんで参加し、健康でたくましい体をつくる。　・体育授業や体力向上の取組の充実により、運動の楽しさを実感する。

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　安部　正
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年１０月１７日（木）
第２回　　令和７年　１月１６日（木）
第３回　　令和７年　２月１３日（木）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学びに向かう姿勢を育てる ・個別最適・協働的な学びの推進 ・課題解決的な学習の推進 ・形成的評価の重視 ・基礎基本の定着	学校の授業と個別の時間との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。 単元テストの平均点が70点を上回っている。	８３	A	徐々に個別の時間が充実してきており、授業と連携させながら基礎基本の定着を図れるようになってきている。	個別の時間の更なる充実とともに、単元内自由進度学習や課題解決的な学習を推進していく。	正答する児童の割合が向上している。個別の時間を更に充実させてほしい。	A
		ＩＣＴ機器（デジタル教科書・一人１台端末の活用等）の活用により、学習意欲や学習効率を高める。	学習意欲や学習効率を高められた授業の割合（教員の記録）	８２	A	個別の時間で、一人１台端末を活用した個別最適な学びの充実が進んでいる。	限定的な AI の利用等、より効率的・効果的な端末の活用方法を検討する。	一人１台端末の活用が進んでいると思うが、リテラシーの向上も期待したい。	A
		課題解決的な学習を展開し、形成的評価を行っていく。	課題解決的な学習・形成的評価を実践できた授業の割合（教員の記録）	８１	A	１単位時間では概ね達成しているが、単元全体を通しては課題が見られる。	個人総合(自由度の高い探究的な学習)など児童主体の学びを計画的に設計できるようにしていく。	概ね達成しているので、引き続き取組を強化するとよい。	A
		教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。	授業交流を年２回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合（教員の記録）	７５	B	OJT 授業交流で学んだスキルを互いに生かし合っているが、不十分な教員もいる。	低中高担任制や協働による教材開発の取組を推進していく。	教員同士の学び合いの時間を創出できるようにするとよい。	B
豊かな心の育成　体力向上	自己肯定感を高める ・道徳授業の充実 ・特別活動の充実 ・豊かな人間性を育む ・椅子を入れる指導 ・体力づくりの推進	「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。	道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合（児童評価）	７９	B	全校道徳や日常的な道徳、更には特別活動の研究を通して、意見を言いやすい環境を整えることができた。	全校道徳の改善や保護者参加型の道徳の設定等、多様な意見に触れる機会を増やしていく。	保護者の参加をもっと促し、親子で考える機会にするとよい。	B
		縦割り班活動において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。	縦割り班活動で協力できた児童の割合（児童評価）	９０	A	兄弟学年で近づけた教室配置等の工夫が生かされ、協力の場が増えている。	教室配置に加え、「縦割りの日」を設定し、更なる充実を図る。	教室配置等の環境面を含め、十分な取組ができている。	A
		児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。	「学校が楽しい」と思う児童の割合（児童評価）	８６	A	個別の時間を軸に、児童個々の興味や関心を学びにつなげている。	児童一人一人の特性を見極めながら、単元内自由進度学習や、個人総合（自由度の高い探究的な学習）を丁寧に進めていく。	先生方は頑張っているが、更に地域の力を広げていきたい。	A
		いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。	年３回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童（解消済み含む）の割合（いじめアンケート）	９３	A	定期的ないじめ防止会議を軸に据えつつ、臨機応変な対応を取り、組織的な対応を取ることができた。	いじめ発生への対応の質は保ちつつ、道徳と連携しながら未然防止に取り組んでいく。また、新設の特別支援学級（知的・情緒）との相互理解教育を推進していく。	しっかりと取り組んでいる。引き続きお願いしたい。	A
		体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。	「体育の時間が好きである」児童の割合（児童評価） 【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「Ｃ」以上の割合が６０％以上又は総合評価「Ｃ」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	８４	A	個々の体力向上だけでなく、友達と学び合う関わりの中で、運動への前向きな気持ちを高めた児童が増えている。運動会では、来場者参加型の種目が大いに盛り上がり、たくさんの児童が運動を楽しむことができた。	４０分授業の中での運動量の確保のため、効率的な単元計画、授業計画を練り上げていく。また、関わりの中で運動を楽しむ機会を増やしていく。	運動会の来場者参加型の取り組みはとてもよかった。地域の運動行事にも積極的に参加していけるとよい。	A
		日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。	「中休みなどの外遊びが好きである」児童の割合（児童評価）	８２	A	担任が積極的に外遊びに参加し、児童をリードしていた。また、室内にも運動できる場所を確保した。	縦割り班を生かし、異学年での遊びの経験を積ませながら、体を動かす接点を増やしていく。	外遊びの機会をたくさん作っていけるとよい。	A
地域に根差した学校づくり	開かれた学校をつくる ・地域資源・ボランティアの活用 ・キャリア教育の充実 ・保護者・地域と協働し共有する学校の推進	地域人材や会社、ボランティア等と連携し、地域内外への見聞を広め、まちづくりへの主体者意識を育む。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０％以上	８０	A	生活科や総合的な学習の時間、学校行事等で、地域人材や教材と連携した取組を進めた。また、小中高でのまちづくりサミットも実施することができた。	地域人材や企業との新たな連携を構築し、児童が夏季休業期間に、主体的に地域と関わることができる接点をより増やしていく。また、個人総合の取組を進めていく。	次年度に向け、地域人材確保の取組が進んでいる。来年度はさらなる充実を期待したい。	A
		学校運営協議会等と連携し、ボランティア参加者を募る。	行事に対するボランティア参加の割合（学校の記録）	８１	A	学校行事や地域行事に、多くの保護者や地域の方々に参加していただいた。しかし、保護者の参加のあり方については改善の余地がある。	保護者の会への依頼や連絡をより計画的に行い、積極的な関わりを促していく。	地域団体の方を中心に、多くのボランティアの協力を得られた。	A
		保護者会の内容や手法（オンライン含む）を充実させ、参加率６割を目指す。	保護者会の参加率（学校の記録）	６２	B	写真や映像の活用、保護者相互の交流等を意識し、保護者会の改善に努めてきた。	保護者会を授業参観や保護者参加型の行事等と関連させながら、参加のきっかけを増やしていく。	保護者の意識の向上と、参加したくなるような会の工夫が必要である。	B
		学校・学年・学級だよりやホームページのオンライン化を進め、計画的に情報発信する。	ＨＰの更新率、学校・学年・学級からの情報発信を月２回程度の割合で実施（学校・教員の記録）	８０	A	HP の更新に加え、SNS での情報発信も積極的に行った。	HP の充実とともに、SNS での発信頻度を増やしていく。	保護者の関心にも関わるので、更に発信頻度が増えるとよい。	A
		地域行事等に積極的に協力し、家庭を理解し、地域に溶け込む努力をする。	地域の行事等に教員の誰かが参加する割合（学校の記録）	100	A	教員で分担しながら、学校として積極的に地域行事に参加することが出来た。	分担が固定しないよう、様々な保護者・地域の方々と交流ができるようにする。	どの行事にも積極的に関わっていてよかった。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立雷塚小学校　　校長名：髙瀬　隆太郎

【経営理念】
知性、徳性、体力、気力を育み、自分も他者も大切に、互いに気遣いができる人間性豊かな児童の育成を図る。

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　吉澤　幹郎
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年　７月１１日（木）
第２回　　令和６年１２月１２日（木）
第３回　　令和７年　２月２０日（木）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全ての児童に対する基礎的･基本的学力の定着を図るための分かる授業への改善	「授業改善プラン」による児童の実態に則した授業改善に日々取り組む。学期に１回以上の授業観察の実施により、管理職や教師同士が授業改善について指導・助言を行う。	自己申告等の授業観察及び児童への授業後の振り返り、児童観察から、理解している児童が90%を超えるか評価。	80.2	A	各担任が日頃から「授業改善推進プラン」で立てた具体的な手立て取り組み、「できた」「わかった」という児童が増えた。特に算数では、東京ベーシック・ドリルや各単元テストの結果として出ている。ただ、国語では、漢字の読み書きや文の読み取りにまだ苦手意識がある児童がいるため、さらなる改善が必要である。	日頃から教師が教材研究をしてよりよい授業づくりに取り組むことや、学期に１回授業観察を行い、管理職や先輩教員に指導する機会を設けること、研修等に参加することなどを通して、授業改善を行う。また、児童一人一人の実態をしっかりと把握して、個別最適化の授業づくりを目指していく。	学習の苦手な児童に対して、どのように指導していくか、先生方が諦めずに考えて、分かりやすい授業を行っていることに感謝したい。児童の実態に応じた指導をこれからも大切にしていきたい。	A
		東京ベーシック・ドリル等を活用して特に算数の定着に課題が見られた単元について授業で繰り返し学習し、地域未来塾（雷塾）、自主学習への取組等を継続的に行う。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	78.6	B	東京ベーシック・ドリルについて１１月に実施した正答数が６月に実施した時の正答数より全学年が向上した。日頃から児童の苦手な単元を中心に復習問題に取り組んだ結果だと考えている。また、夏と秋に放課後学習教室を開催して、学習の基礎基本を身に付け、学力向上に取り組んだ。	さらなる学力の定着を図るために、放課後学習教室（雷塾）や東京ベーシック・ドリルの取組だけでなく、「未来シード」のアプリやラインズ「e ライブラリ」、東京ベーシック・ドリルの電子版などの継続的に取り組む。次年度は、クラスの８割以上が基礎基本を定着できるように育てていく。	先生方が日頃から児童に復習する機会を設けたことによって、その成果が表れたことはとてもよかった。また、様々な復習アプリを学校でも家庭でも有効活用できていいるので、今後も続けていければと感じた。	A
豊かな心の育成	人権教育の推進のため教育活動全体で道徳教育の取組を行う。また、特別支援教育の推進に努める。	「全校道徳の日」を年間６回設定し、全校で同じ内容項目について考えられるように計画、実践する。保護者にも通知し、家庭でも話題にしてもらうことで道徳的価値について考えられるようにする。	学校評価アンケートにより、人権についての項目での 80%が肯定的になること	79.8	B	授業の中で、友達と関わり活動を取り入れ教育活動を行ったり、保護者に人権教育で行っていることを伝えたりした。児童にアンケートを行った結果、友達を大切にしている児童は９９%であったが、自分を大切にするということろでは、７０%にとどまり、他者意識は育っているが、自己肯定感が低い児童が一定数いることが課題である。	今年度は、自己肯定感を高める手だてとして、活動の振り返りを行ったが、児童に振り返りの意義を十分に理解させることができず、十分に自己肯定感を高めきれなかった。次年度は、児童がその日の学習内容と自分の頑張りを認められるような振り返りを行い、自己肯定感を高めていくことで、自分も相手もより大切にできる児童を育成していく。	道徳授業地区公開講座で先生方の授業を参観すると、児童個人の意見を引き出すための工夫がなされた授業と感じるが、それらの工夫を児童の自己表現につなげていくことの難しさがあると思う。みんなの前で出すぎてはよくないという意識も自己肯定感の低さにつながっているのではないかと感じる。	A
		特別支援教育コーディネーターによる役割を明確にし、校内委員会を月に３～４回実施し、校内支援体制の充実を図るとともに具体的な支援策を実践できるようにする。	学校評価アンケートにおける特別支援教育における項目での 80%が肯定的になること。	80.5	A	特別支援コーディネーターが各学級の様子を見ることで、実態の把握をし、コーディネーターを中心として校内委員会を行い、個に応じた支援方法を検討し、全教員で確認することができた。通常級と特別支援級の児童が総合的な学習の時間や行事等で交流を行い、相互理解を深めた。	特別支援コーディネーターの役割を明確にし、校内支援体制をより充実させていくとともに、今までのように計画的に校内委員会を開催していく。交換授業については、次年度までに計画を立て、行うことができるようにしていく。	通常の学級と特別支援学級の児童が交流しながら運動会や音楽会などの大きな行事に取り組む様子が見られた。その様子から学校全体として特別支援教育の推進が円滑に行えていると感じている。 校内委員会などで話し合われたことを踏まえて学校への協力をしていきたい。	A
健やかな体の育成	体力の向上を目指し、健康な体を育むようにする。	中休みは原則外遊びをさせ、たくましい体をつくる。日頃から、手洗いうがいや換気の呼びかけを行う	休み時間や休み時間後などの観察で、児童が健康に気を付けて行動している。	81.1	A	養護教諭や保健給食委員と連携のもと、ポスターや集会等で周知することができた。中休みや、外遊びを励行したため、全校で体力向上に努めることができた。	引き続き実施するとともに、感染症等が流行る時期については引き続き委員会や養護教諭と連携し、周知していく。	周知してきたことも理由にあると思うが、外遊びをしてきたことで健康な身体になっていると考えられる。市内では、学級閉鎖も多くあったようだが、本校は、閉鎖になった学級が一つであった。	A
		校内のＯＪＴ等により体育科の授業の充実を図り、持久走月間、体育集会等を設定し、体力向上に向けた全校的な取組を推進する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	75.0	B	設備に関しての OJT は実施したが、授業力につながる OJT はできていなかった。持久走月間と体育集会では、全校で取り組めた。	持久走月間や体育集会の取り組みは意識しつつ、体育の授業づくりに関する OJT も行い、どの学年でも体を動かす楽しさを味わえるように OJT を設定していく。	持久走旬間や体育集会を行ったり、校庭遊び等を奨励したりしている。放課後も校庭や公園で児童が遊ぶ姿がよく見られる。校内での授業づくりについては、よくわからないが、まだ伸びしろがあると感じるため、今後も期待している。	B
まちづくり学習の充実	主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、保護者・地域と連携・協力し、地域に根ざした探究的な活動の推進	まちづくり学習において、地域の物的及び人的資源を活用した教育活動を計画的に進める。第三中校区の小中連携を進めながら、地域における交流体験、交流学習を実施する。	学校評価における地域との連携の項目で、80%が肯定的となること。	78.5	B	「まちづくり学習」の一環で地域の商店街を見学したり、デエダラ祭りでゼロカーボンの発表をしたりし、地域と関わる学習を多く取り入れ、地域とたくさん関わることができた。国立感染症研究所の出前授業や総合防災訓練など校内でも地域の方々と連携しながら、交流学習を実施することができた。	次年度以降も「まちづくり学習」を通して、地域とたくさん関わりをもち、子供たちの体験活動を増やしていく。また、地域や保護者と連携して行った教育活動を、学校だよりや X などを通して学校からも地域にも引き続き、発信していく。	今年度は外に出ていく活動が多かった。地域の人にもっと子供の教育の存在を知ってもらいたいと感じているので今の活動は継続してほしい。	B
		各教科や生活、総合的な学習の時間において、地域の人々や環境、地域の歴史等について学習していくことを通して、地域のよいところや課題に気付けるような単元の設定を行い、実施する。また、２月までに地域や保護者の方に自分達の考えや取組を発信する時間を設定し、実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	78.6	B	各学年で地域に関わる活動を行った。学区の商店街やお店、支援学校や感染研、むらやま苑などの施設、お茶や野菜の農家とも関わり地域のよいところを探すことができた。児童が自ら課題を設定し、見通しをもたせることには、まだ課題が多い。	主体性や対話の苦手な児童に対して、教師がどのように指導して、授業を展開していくかを考えていく必要がある。ICT 機器や視覚的な教材などを活用しながら児童が課題を設定しやすくなるような単元設定をしていく。次年度以降も引き続き、主体的な学習に取り組めるように、児童の実態に合わせて次につながるような発表の方法を検討していく。	児童それぞれの特性があるが、自分の頭で考え、自分の言葉で話すことは、今後も大切になってくると思う。コミュニケーション能力を高めるためにもグループ交流の継続性が必要になってくると感じた。	A
学校裁量	「誰もがリーダー」を合い言葉に、主体的に仕事に取り組む人材が育つ「チーム雷塚」の創成	「任せ・見守り・育てる」ことで、自ら考え、すすんで実践していく主体的な教職員を育てる。教え、教わる協働的な職員室の雰囲気作りを行う。	・教員及び保護者への学校評価アンケートから、職場への満足感や教職員の外部への対応などの項目で 80%の肯定的意見。	78.4	B	学校自己評価アンケートから、チーム雷塚として協働的な職場環境になっている割合が６月より向上し、８割近くになった。特に、若手教員が普段の授業だけでなく、担当分掌の職務も率先して取り組んでいる姿が多く見られた。	職員会議や夕会など教職員間で様々なことをしっかりと共有を続けていく。各担当の仕事内容に部分的に偏りがあったため、次年度以降は、細かく仕事分担をして、一人一人が自覚をもって職務を全うし、互いに助け合いながら、さらによりよい「チーム雷塚」を目指していく。	ぜひ、助け合って仕事を続けてほしい。先生が楽しく過ごしていないと子供も楽しくないと思う。冗談を言い合ったり、笑い合ったりして子どもと楽しく過ごしてほしい。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校村山学園　　統括校長名：井内　潔

【経営理念】

施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人との関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。

（１）義務教育９年間での系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校

（２）施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校

（３）地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長　羽鳥　直美】

学校運営協議会（学校評価分）

第１回　　令和６年　７月12日（金）

第２回　　令和６年11月21日（木）

第３回　　令和７年　２月14日（金）

項目	計画・取組			自己評価				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	一人１台端末などの ICT 機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	一人１台端末の活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が８０%以上	１０３	A	各教科等の学習で教員が意図的に活用する活動を設定していることにより、児童・生徒の肯定的回答割合が高いと考える。	校内研究等を活用して、一人１台端末を教員、児童・生徒が学習の道具として当たり前に活用できる取組を推進する。	書字に困難さがある児童・生徒が一人１台端末の使用により学習に向き合えている。	A
		各教科の学習において、問題練習を行う時間を設定し、問題に繰り返し取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）以上	小国１０６ 小算８９ 中国９４ 中数８７ 小平均９７ 中平均９０ 小中平均９４	A	評価は A であるが、以前として基礎的・基本的な学力の定着には課題がある。	授業において、読み・書き・計算の習熟を徹底する。演習の時間を授業内で設定して、繰り返し取り組ませる。	家庭学習の習慣付けについては動機付けをどうするかが課題になると感じる。	A
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が９０%以上	９７	A	いじめの未然防止、早期発見、早期対応が行えている結果であると考える。ふれあいアンケート以外にもアンケートを実施して、早期発見に取り組んでいる。	これまでの取組を継続して実施するとともに、全校連絡会等で適宜、管理職がいじめ防止策について教員に指導していく。	児童・生徒に対する細やかな配慮があっての到達度である。日々、教員が対応している姿を見かける。	A
	生命を尊重する心を育む道徳教育の推進	道徳科の学習において、内容項目 D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導を重視して実施する。	動植物など生命ある物を大切にしていると回答した児童・生徒の割合が９０%以上	１０５	A	年間指導計画に基づいた道徳の授業を実施し、確実に生命尊重について指導している結果であると考える。	今後も道徳の授業において、生命尊重を重視して、指導にあたる。また、観察池や水槽などでの生物飼育により、校内の環境整備も進めて日常的に生物に触れられるようにする。	校内で畑や花壇で野菜や植物を育てている様子をよく見る。生命・自然等に関わることができるように指導されていると感じる。	A
健やかな体の育成	進んで運動しようとする意識の醸成	休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。	すすんで運動しようとしている児童・生徒の割合８０%以上	１００	A	児童に比べて、生徒の肯定的回答割合低い結果であった。	全校朝会で身体を動かすことの良さを伝えるなどして、生徒会体育の時間以外にも身体を動かすよう促していく。	より外遊びをする児童が増えるとよい。	A
	児童・生徒の体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上、または総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上	１２０	A	体力向上を図る取組が機能的に活用できている。	児童・生徒がより意識を高めて、各運動に取り組むことができるように取組の充実を図る。	大縄大会は、体力以外にも育てることができる取組であり、その意味でもよい。	A
まちづくり学習の充	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的回答が７０%以上	１０８	A	総合的な学習の時間等の学習ややってみかんパニーでの取組を通じて、児童・生徒が武蔵村山市についての理解を深めることができた結果であると考える。	これまでのまちづくり学習の成果や課題を的確に捉え、より効果的な学習となるように計画していく。また、地域人材を活用した学習活動が実施できるように市役所の関係各課とも連携を行っていく。	・児童・生徒が育ったまちに誇りがもてるように支えていきたい。 ・より地域の人材を活用して、市の産業や特産などについて一緒に学習していけるとよい。	A
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が８０%以上	１０７	A	学校運営協議会委員により読み聞かせや、家庭科（ミシンの支援）、国語（書き初めの支援）、学年行事等での地域人材の活用が効果的に行えていた。	これまでの取組を継続できるように働き掛けるとともに、学校運営協議会などを活用して、新たな人材の発掘を進める。	・地域の方が支援に入るときには、学校としてどのように活用したいのかを伝えて、調整していくとよい。 ・家庭科のミシンや書写の学習に関わり、児童の変化の様子が見られてよい機会になった。	A
	学校からの情報発信による家庭・地域との連携	学校だより、学年だより、学級だより及びホームページや Ｘ を活用し、計画的に学校の情報を発信する。	学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合が９０%以上	９７	A	日々の教育活動を発信することに努めていた結果であると考える。高齢者などSNSを利用していない方に対する情報発信が課題である。	これまでの取組を継続していく。地域の方々への情報発信については、自治会などとも相談して検討していく。	・発信された情報を無駄にしないようにしたい。 ・学校の情報を地域の方により広めていけるとよい。	A

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校　　校長名：川口　周作

【経営理念】「学ぶ楽しさ」「人とかかわる楽しさ」「元気に育つ楽しさ」を目指して

（１）体験活動や交流活動を通して学びに向かう力を育む

（２）多様な考えを認め合う中で自分の考えや思いを伝える力を育む

（３）健康・体力を育む

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　南谷　尚

学校運営協議会（学校評価分）

第１回　　令和６年　６月１３日（木）

第２回　　令和６年１２月１４日（土）

第３回　　令和７年　２月２７日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和　年　月　日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「児童が主体となる授業の工夫と改善」 ・どの授業でも「じっくり考える」「発表し交流する」場面を創り、言語活動の充実を図る。 ・「考える楽しさ」「わかる楽しさ」「できるようになる楽しさ」を感じさせ、学習習慣や基礎的な学力を身に付けさせる。	生活時程のチャレンジタイム（２校時後の15分間）において、計画的に漢字や計算・読書活動・学習の補充などを実施する。	学校評価アンケートの「基礎学力が身についた」「学習意欲」の項目について、肯定的な回答を７０%以上。	８０	A	新出漢字の練習、計算、学習活動の延長、特別活動などを実施してきた。目標値には達成できたが、さらに学習意欲の向上を目指した授業づくりも行ったいく。	年間計画において、基礎的な学習の時間を確保し、各学年で計画的に進めていく。	学力の向上などについての発信があるとよい。	B
		毎週、金曜日の放課後に各クラスにおいて数名の取り出し学習（教科学習の学習支援）を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	８７	C	平均正答率は、目標値を下回っている。	業間活動において、定期的に基礎的な学習の反復などを実施する。放課後に、基礎学力定着を図るための学習の補完を行う。	今年度の取組が成果として表れることを期待する。	B
豊かな心の育成	「温かい関わりと思いやりを重視した指導」 ・人と関わる多様な活動の中で児童が安心できる環境を作る。 ・児童の心に寄り添う生活指導によっていじめや問題行動、学校不適応の早期発見を図る。	特別活動の「学級活動・たてわり班活動」において、課題解決を図るための合意形成を図ったり、意思決定したりする中で「話し合い」を活動の中心に置く活動を行う。	学校評価アンケートの「温かい関わりと思いやりの心が育っている」の項目について、肯定的な回答を７０%以上。	７５	B	目標値には達成できた。今年度、たてわり活動を３０分の活動にしたことで、昨年以上に活動の中で関係性を深めることができた。	特別活動での話し合い活動を中心に、各教科でも課題解決を図るための合意形成を図ったり、意思決定をしたりする活動を増やしていく。	自分の考えと他の児童の考えの違いを理解できるようになるとよい。	B
		道徳の学習において、重点指導として「自立心や自律性」「生命を尊重する心」「他者を思いやる心」の価値項目について学期１回以上行う。	ふれあい月間の実施後調査（11月）において、いじめや生活指導関連において、肯定的な回答を 60%以上。	46	C	学校教育全体の活動において育む力のため、個の見取りや課題解決への早期発見などを後期も進める。	道徳の学習において、ふれあい月間で全校共通の価値項目の指導を実施する。また、全校共通の重点指導項目を月１回実施する。	年間を通して、学校全体で取り組んでいくことが望ましい。	B
健やかな体の育成	「病気や怪我を減らすための健康増進・感染防止の意識向上」 ・「体を動かす楽しさ」「挑戦する楽しさ」「健康に生きる楽しさ」を感じさせる。 ・心身ともに健康で最後までやり抜く児童の育成を図る。	・３年生以上では、食や睡眠を主に「健康」に対する意識を高める保健の学習の工夫と改善を行う。 ・全校児童の理解啓発とする教育活動（ゲストティーチャー招聘）を実施	学校評価アンケートの「健康を意識した生活習慣を送っている」の項目について、肯定的な回答を７０%以上。	75	B	目標値には達成できた。健康に関する情報発信や学校全体で取り組む教育活動についてさらに工夫と改善を行っていく。	家庭との連携をさらに高めていくための取組を計画的に実施していく。研究部を中心に、家庭への啓発の仕方を検討し周知していく。	食育や運動等の取組は、子供たちが楽しそうに行っている。	B
		・全学年において体育学習の工夫と改善を行う。 ・全校が運動の楽しさを味わうための体育的活動の工夫をする。（学期１回実施）	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	70.1	A	目標値は達成できている。総合評価 C 以上の割合は、男子では都や全国と比べ上回っている。女子は下回っている。	全校児童が運動の楽しさや体を動かす楽しさを味わえる活動の工夫と場の準備などを検討し、計画的に実施できるようにする。	今年度以上の取組ができるように検討していってほしい。	B
まちづくり学習の充実	「総合的な学習の時間を中心に学習を進め、各学年のねらいにそった学習活動」 学年末においては、まとめと報告する会を設け、自己の振り返りや今後のまちづくりについて考えていくことができるように計画的に進める。	学校だよりや学年からのお知らせ等で「まちづくり学習」の学習状況や取組について、学期に１回または月に１回程度、保護者に情報提供していく。	学校評価アンケートの「各学年の『まちづくり学習』について情報発信をしている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上。	46	C	現在、Ｘを中心に保護者や地域に情報を発信している。各学年からも情報発信を行っている。保護者のお手伝い等も含め、今後も情報提供を積極的に行っていく。	Ｘで学校の教育活動を紹介していることを学校だよりや保護者連絡機能で周知する機会を増やしていく。	X 等の配信を楽しみにしています。	B
		学年末の授業公開を全学年が「まちづくり学習」の報告・発表の授業とする。報告や発表を参観後、保護者や地域の方から感想や意見をいただく。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上。	50	C	生活科や総合的な学習の時間を中心に、課題設定や解決への見通しなどを持たせた学習活動になっているか。検証が必要である。	地域学習や校外学習に、授業のサポートしてくださる保護者を今年度以上に増やしていく。事前の予定を保護者に知らせるなどしていく。	校外の活動を見ることがある。	B
学校裁量	校内研究「運動の楽しさを味わい、健康意識を高めていく　むさななっ子チャレンジ」の研究主題を基に、「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」の４つを柱に健康意識を高める。	本校の児童の健康意識を高め、運動することで得られる価値を見いだすために「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」の４つの分科会で、それぞれが課題の工夫と改善の授業や取組を行う。また、家庭との連携を図る。	校内研究の児童アンケートにおいて、「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」に関する項目でそれぞれ肯定的な回答を７０%以上。	85	A	食育については、低学年を中心に授業を行い、中学年以上は学習農園を活用して実際に野菜を育てるなどした。運動に親しむ取組は、体育的活動でマラソンや縄跳び・遊びの活動を行うことができた。	次年度は、体育の学習を中心とした授業改善を中心とした研究や研修を行っていく。	概ね目標を達成できている。次年度は、さらなる工夫と改善を期待する。	B

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校　　校長名：福泉　宏介

【経営理念】小中連携を通して「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る。
○　生徒の生命を第一に考え、生徒にとって心身ともに安全で安心な学習環境を整える。
○　自他を大切にする心をもち、いじめや嫌がらせ許さない指導を徹底する。
○　基礎的・基本的な知識・技能の定着と学習意欲の向上、探究的な学びを目指す。

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年　４月２５日（木）
第２回　　令和６年１１月２１日（木）
第３回　　令和７年　２月１９日（水）

項目	計画・取組			自己評価（令和　年　月　日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	・言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ・学習の習熟が不足する生徒に、放課後や長期休業日を利用して補充的な学習を実施する他、日常の小テストや自学ノートを活用して基礎学力を高める。	各教科等の授業においてねらいを明示して学習に見通しを持たせるとともに、終了時に振り返りを行うことでその時間に学んだ内容の定着を図る。補習教室を行うことで、確実な定着に向けた支援を行う。	学校評価アンケート（生徒・保護者）の「学校は生徒に分かりやすい授業を行い、生徒の基礎・基本の定着に力を尽くしている。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	生徒 93.6 保護者 96.1	A	授業改善の成果が分かりやすい授業につながっていることが理解されている。補習教室については実施の拡充を求める声もあった。	授業改善は今後も続けていく。また、ICT の活用もさらに充実させていく。補習教室等の実施については働き方改革を考慮しながら実施形態と内容について検討していく。	授業改善、補習教室等は継続してほしい。放課後の自習教室等の設置、授業内容の復習、生徒のやる気向上を保って進めてほしい。書く力を育ててほしい。	A
		武蔵村山チャレンジや日常の小テスト等の取組により基礎・基本の徹底とその活用による思考力・判断力・表現力を養い、理由を添えて自分の考えを書いて説明できる力を育む。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	R6/R5 比 国語 100.5 数学 95.9	B	問題の目標値に対しては、令和５年度は国・数ともに下回っていたが、令和６年度はいずれも上回っている。内容では国語では全体的に、数学では活用の問題で向上がみられた。	今後も起基礎・基本の徹底を図る指導を継続するとともに、活用力を伸ばす効果的な指導の継続と更なる充実に向けて、授業改善に取り組んでいく。	どのような問題なのか分かるように具体的に分析をしてほしい。 指導を継続してほしい。	A
豊かな心の育成	・自他を大切にする心をもち、いじめや嫌がらせを許さない指導を徹底させるとともに、思いやりの心を育て、偏見や差別をなくすために人権教育・道徳教育を推進する。 ・いじめ等の問題行動や不登校の未然防止に組織的に取り組み、「居心地のよい学校づくり」を推進する。	道徳授業において教員がローテーションにより授業を行い、全教員が道徳教育への関わりを深めるとともに、教科横断的・相乗的な指導を行うことで、生徒の心の成長を促す。	学校評価アンケート（生徒、保護者）において、「道徳の授業で心の成長を感じることがある（促している）。」の項目で肯定的な回答を７０%以上	生徒 77.5 保 護者 80.8	A	全教員で道徳授業を行うことで多様な価値観や多面的・多角的な見方・考え方を提示し、生徒の豊かな道徳性の涵養を図ることができていると考える。	学年教員によるローテーション道徳指導は今後も継続し、生徒の道徳性の涵養を図っていく。	ローテーションによりいろいろな先生の話を聴けるのがよい。強い心を養うことも同時に行うことが大切だと思う。	A
		定期的なアンケートの結果の分析・活用を行うとともに、生徒の様子の共通理解を行い、教育相談機能を活用しながら一人一人を大切にする生徒指導の徹底を図る。	学校評価アンケートの「担任やスクールカウンセラーは、一人一人を大切にする指導を行っている。」の項目で、肯定的な回答を６５%以上	生徒 90.8 保護者 88.5	A	教員が生徒の様子をつぶさに見守るとともに生徒アンケート等を有効活用することで、個に応じた指導と全体指導を適切に実施していることによるものと考える。学業の不振による不登校生徒への別室登校による学習支援や相談活動も成果を出し始めている。	教育相談機能の充実を今後も検討し、アンケートの分析・活用や家庭・関係機関との連携の中で、いじめや不登校等の対応の充実を図っていく。特に学業の不振による新規不登校が出ないよう策対策を進めていく。	いじめは「いじめたつもりはない」が多い。アンケート結果の分析・活用をして生徒の様子の見守りを継続してほしい。	A
健やかな体の育成	・生徒の安心・安全を第一に考え、安全な学校生活のための共通理解を図り、組織的に対応する。健康的な生活を送るための規則正しい生活や食生活の充実について、全教員で指導する。 ・保健体育科の授業や体育的行事をはじめ、様々な取組から生徒の体力向上を図る。	保健・給食部を中心に生徒が心身ともに健康的な生活を送ることができるよう、全教員で日々の指導を行うとともに、委員会活動を通して生徒の自主的な行動を促す。	学校評価アンケートの「身体の健康と安全について注意して生活している」「生徒の安全・健康面への対応をしっかりしている」の項目について、肯定的な回答を８０%以上	生徒 88.0 保護者 77.0	B	生徒は概ね自身の安全・健康を意識した生活をすることができていると考える。保護者に対して啓発・連携をさらに進めていく必要がある。	安全・健康の保持・増進について、保健体育科や養護教諭だけではなく、全教員で取り組むとともに、取組内容について保護者・地域に向けた啓発活動を行っていく。「	感染症等はまだ油断できない。啓発活動をもう少し取り組んでほしい。 心も体も健康な子供を育ててほしい。挨拶運動も取組に入るのではないか。	B
		保健体育科の授業における指導をはじめ、運動部活動、運動会の自主的な取組やランニング・ウォーキングイベント等の実施により、生徒の体力向上の意欲を高める。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	男子 64.4 (+8) 女子 78.3 (-5)	B	男子は C 以上が 56%→64.4%、女子は 83%→78.3%となった。いずれにしろ60%以上の生徒が体力の向上を図れている。女子については運動部活動の加入率の低下等で運動する機会が減っていることによるものと考えられる。	保健体育の授業や体育的行事等での体育的活動の充実を図り、維持・向上できるようにしていく。	ランニング・ウォーキングのような分かりやすいイベントがあるとよい。女子の運動部活動を活発にしてほしい。	B
まちづくり学習の充実	各教科、総合的な学習の時間に「まちづくり学習」を設定し、保護者、地域と連携して探究的な学習を進め、よりよい地域づくりのために主体的に考え、行動する態度を育てる。	総合的な学習の時間において「自分の生き方を発見する」を全学年テーマとし、職業理解、体験的課題解決、伝統・文化理解や教科横断的な学習を通して、地域の一員として現代的な諸課題に対応する資質・能力を育てる。	学校評価アンケートの「職業調べ、進路学習等を通して将来の生き方や進路について考えるようになった。」の項目について、肯定的な回答を８０%以上	生徒 77.9 保護者 80.8	B	趣旨は概ね理解されていると考えるが、取組について課題を精査し検討を重ね、さらなる充実を図る必要がある。	キャリアパスポートを活用しながら小中９年間を通した進路学習の取組内容を確認しながら、生徒が自らの将来について考え切り拓く力を身に付けられる学習内容の充実を図り、実践する。	自分の生き方に目を向けるのは素晴らしいことである。やっている内容を周知できるとよい。地域の方々との協力で様々な観点から学べるとよい。	B
		学年ごとに、地域についての調べ学習やテーマ別グループ学習、職場体験等を行う。また、地域の PR についても提案、プレゼンを行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	生徒 80.8 保護者 77.0	A	生徒はまちづくり学習について意欲的に取り組む姿が見られ、それは生徒自身もそのように考えている。保護者への周知をさらに拡充する必要がある。	継続して生徒がまちづくりの主体として持続可能なまちづくりを考えていくための資質・能力を身に付けられる教育活動と具体的取組について企画・実施していく。	こつこつやっている。価値付けをして、よさを考えるように発展してほし。自分たちの町が好きになるようになってほしい。成果物を目につくところに掲示しておくとよい。	B
学校裁量	小中一貫校基準「自分の考えを、理由を添えて説明できる生徒」を、小中連携による学習指導や行事の実施を通して育てる。	・話合い活動を通して小中一貫校基準を育む授業のあり方について小中合同で研究を行い、日々の指導に生かす。 ・行事等の小中連携を通して、自分の考えをもち主体的に行動する生徒を育む。	○　学校評価アンケート（生徒）において「私は、自分の考えについて理由を添えて述べることができている。」の項目について肯定的な回答を７０%以上 ○　学校評価アンケート（生徒、保護者）の小中連携の項目において肯定的回答７０%以上	①生徒 72.3 ②生徒 85.1 保護者 80.8	B	一定程度の理解は得られているが、生徒の意識を高めることが必要と考える。	各教科等の授業の中で、理由を添えて意見を述べる力を身に付けられるよう指導をさらに工夫し、充実させる。 「生徒が創る行事」に向けた指導を今後も継続し、生徒の主体性と行動力の育成を図る。	理由を添えて意見を述べる力は小学校から継続的にあると身に付きやすいのでは。 生徒が創る行事は頑張ってほしい。 一番継続していただきたい内容である。	B

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第一中学校　　校長名：島田　治

【経営理念】
（１）基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校
（２）地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校
（３）道徳的心情や道徳的実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】小泉　亨
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年　５月２１日（火）
第２回　　令和６年１１月１９日（火）
第３回　　令和７年　２月１４日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和　年　月　日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	① 生徒の基礎学力の定着 ② 教師の授業力の向上	①　全ての教科、単元において他者との対話的な学びの場を取り入れる。 ①　夏休み補習教室の実施。第三学年を対象とした地域未来塾に新たに実力アップ講座を開講。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。 ①　学校評価の授業以外の学習機会があるという質問項目で肯定的に捉える生徒９０%以上	８０	A	正答率は国語数学共に 50%程度であり、前年度に比べ、国語は 0.01%、数学は 0.04%下がった。しかし、全国平均を 50 としたときの本校平均の値を比べると国語と数学共に 0.3 上昇していることからわずかではあるが学力が向上しているといえる。	朝学習を充実させて基礎・基本の定着を徹底する。第三学年を対象とした地域未来塾では、年度途中での登録を認めるなど意欲のある生徒がより学習の機会が得られるようにする。	基礎学力向上に向けた種々の施策で学力向上への生徒の意識が上がっていると感じる。数値的には向上の余地は大きく継続した取り組みをお願いする。	B
		②　全教員が学習の内容やねらいに応じて ICT を活用する。 ②　ICT 支援員や研究主任による研修を学期に１回以上実施。	②　学校評価の授業の分かりやすさに関する質問項目で肯定的に捉える生徒を８０%以上	９７	A	学校評価の授業の分かりやすさについて 77.7%の生徒が肯定的に捉えていた。昨年度より 1.6%上昇した。また、まったく思わなと答えた生徒が昨年度より 0.3%減った。	ICT 機器を活用する教員が増えたことで視覚的に分かりやすい授業につながった。一方で、３%の生徒が分かりにくいと感じているので個に応じた指導や個別指導の在り方を充実させる。	公開授業などで ICT 活用が進んでいることが実感できる。活用レベルには差異が見られ一層の ICT リテラシー向上を望む。	A
豊かな心の育成	① いじめの撲滅 ② 生徒の規範意識の醸成	①　年１回以上、いじめについて考えたり取り組んだりする活動を実施。 ①　『人権教育プログラム』を活用した授業の実施。教員への研修の実施。	学校評価の学校生活、生き方、悩みが生じたときの対応に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 90%以上	６９	B	相談のしやすさについて生徒は 66.2%、保護者は 65%が肯定的に捉えていた。昨年度より生徒は４%、保護者は 6.4%低下した。業務量の多さのため教職員につながりにくいことや相談希望者の増加により SC の予約が取りにくくなったことも原因の一つと考えられる。	業務の効率化を図り、教職員が生徒や保護者に向き合える時間を増やすよう努める。また、SC の来室日が増えるように関係機関に要望し、より相談がしやすい環境づくりに努める。	SNS 問題や不登校などでは顕在化していない問題もあり、相談への要求は強い。教職員数の拡大も含めた対応する体制の強化をお願いする。	B
		②　キャリア教育や進路指導の中で礼儀作法について学ぶ場を設定。 ②　校区の小学校と連携したあいさつ運動を各学期で実施。	学校評価の挨拶や自治的活動、生き方に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 90%以上	８４	A	挨拶や自治活動、生き方の学習に関して生徒は 93%が肯定的に捉えているが、保護者は 76%と認識のズレが大きかった。学校の内外で生徒の行動が異なっているものと思われる。	学校外でも挨拶や集団の中でより良い人間関係を自主的、実践的に形成できるよう道徳を中心に指導の充実を図る。また、家庭に学習の様子が伝わるよう発信していく。	各種の委員会活動や行事の実行委員等を通してリーダーシップや規範意識の向上が図れている。	A
健やかな体の育成	生涯スポーツにつながる体育科の授業の充実	・珍しいスポーツ（ラート）を体験する機会を設けたり、市民駅伝競走大会と体育科の持久走を関連させたりするなどカリキュラムマネジメントに取り組み、生徒の運動に対する意欲を高める。 ・２種目以上の競技で専門家を講師に招いた体育の授業の実施。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。 学校評価の運動やスポーツに関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒７０%以上	１００	A	調査結果は 80.4%で目標値を大幅に超えた。昨年度と比べても C 以上の割合が 4.1%向上している。また、学校評価においても 70.2%の生徒が肯定的に捉えている。武蔵村山市民駅伝競走大会につなげられるように長距離走を扱う時期を工夫したり、専門家を講師に招いた授業を実施したりしたことで生徒の運動への意欲が高まり、その結果体力の向上に結び付いた。	次年度も引き続き体力向上及び運動に対する意欲を高める取組を進める。体力テストの Ｄ や Ｅ 層の割合を減らすなど底上げを意識した指導を検討する。	適切にマネジメントされたタイムリーな授業の実施で生徒のスポーツへの関心を高められている。継続的に行っていくことが体力向上に重要と考える。	A
まちづくり学習の充実	① 総合的な学習の時間の充実 ② 地域への愛郷心がある生徒の育成	①　学校のテーマ「自らの生き方を考える」と学年のサブテーマ「村山とともに生きる」（一年）「村山から外へ」（二年）「未来へ向かって」（三年）を関連させた授業の実施	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。』の項目について、肯定的な回答を７０%以上	８５	A	肯定的に捉えている生徒は６２%だった。各学年川越、都内、修学旅行などの行事とまちづくり学習を関連させて調べ学習の機会を多く設けたことがこの結果につながったと思われる。	まちづくり学習の学習計画を大幅に見直し、市教委を通じて地域の企業や公的機関等と連携を図り、武蔵村山市に焦点を当てて自分なりに課題を見出し、課題解決学習に取り組むことができるようにする。	学校側から発信されるまちづくり連携の話が確実に増えてきていて、生徒の武蔵村山への関心度アップを期待したい。	A
		②　教科の学習や行事等において地域の人的資源を活用した活動の実施。クリーン作戦やさくら祭りなど地域の行事への生徒の参加。	学校評価の地元へ愛着に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を７０%以上	１００	A	肯定的に捉えている生徒、保護者がともに ７１%程度だった。昨年度に比べてどちらも１０%程度上昇した。市の施策であるまちづくり学習と関連させたことも効果的であった。	まちづくり学習の学習計画を大幅に見直し、年間を通じて学習を展開することでより地域に愛着をもてるようにする。	一方で地域の側の受け止める力の低下が感じられる。市の施策、他の市民団体との連携を改善するよう努力したい。	A
学校裁量	① 家庭学習の定着 ② 開かれた学校の推進	①　検定（英検・漢検等）や定期考査（年間５回）実施することで、短期の目標を持ちやすくするとともに、学習計画表等の作成指導を徹底する。	学校評価の家庭学習の習慣に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を８０%以上	７９	B	家庭学習の習慣について肯定的に捉えている生徒は 63.5%、保護者は 48.5%だった。昨年度肯定的に捉えている生徒が 57.3%、保護者が 38.1%だったことを鑑みると十分とはいえないものの着実に家庭学習が身に付きつつある。	家庭学習の習慣の定着は保護者の協力なくしては成立しない。学校でも適宜、課題を出しつつ保護者にも積極的にお子さんに関わっていただく機会を設けていく。	家庭学習の習慣をつけた生徒はその成果を実感している。きっかけ作りが重要であり、学校、保護者の連携で積極的に進めて欲しい。	B
		②　tetoru や X（旧 Twitter）を活用した情報配信の強化。	月に１回以上配信する。学校評価で保護者による各項目の「分からない」を２０%以下						

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第三中学校　　校長名：飯星　健司

【経営理念】

① 生徒一人一人を大切にする
② 生徒の良さ、可能性を伸ばす
③ 教師の持ち味を生かし、勝負する

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　新谷　貞典
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年 10 月 25 日（金）
第２回　　令和６年 12 月 13 日（金）
第３回　　令和７年　２月 14 日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和　年　月　日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	【中期】生徒の基礎学力の定着と向上を図る 【中期】家庭学習の習慣化と定着を図る 【中期】読書活動と NIE 教育を推進し、言語能力向上を図る	・一人１台端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る。 ・補充的学習（地域未来塾等）の実施。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	75%	B	・ＩＣＴの活用を意識した授業を教員一人一人が意識したこともあり、「授業が分かりやすいと考えている生徒」が２年生で80%以上、１・３年生で90%以上いる。 ・市学力調査において、２年生の平均正答率は昨年度（中１）よりも 4.7%下がった。	・デジタル教科書や ICT ツールを活用し学習の効率化を図る。また、個別最適な学びの実現のために生徒一人一人に応じた学習課題の提示などすすめ、グループ学習等においても協働的な学びをすすめる。また、地域未来塾や補習等も継続して実施していく。	生徒へのアンケートで、約９割の生徒が先生方の授業は分かりやすいと回答している。今後も分かりやすい授業に取り組んでほしい。	A
		・家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・一人１台端末等で学習環境を整える。	年５回アンケートを取り、学習時間が１時間以上の生徒が９０%以上	60%	B	・家庭学習を１時間以上行っている生徒は１年 45%、２年 39%、３年 76%と昨年度の調査よりも低下している。また、家庭学習の習慣が身に付いていないと考える保護者が多い。 ・朝読書の習慣が定着しており、読書について肯定的に捉える生徒も９割以上いる。 ・社会科や総合的な学習の時間を中心に NIE 教育を推進し、新聞づくりや新聞投稿を行った。新聞投稿者は 41 名と昨年度よりも微減した。	・「新三中スタンダード」を策定し、授業と家庭学習の一体化を図り、家庭学習を習慣化させる。また、週末課題等においてｅライブラリーを活用し、学習ログを双方向で共有することにより生徒一人一人の理解度に応じた指導に生かす。 ・朝読書、ＮＩＥ教育をさらに推進していく。	家庭学習には本人の意思と家の協力が必要である。学習習慣の身に付いていない生徒へのきめ細かな指導を行ってほしい。読書活動や NIE 教育など伝統的に取組んでおり、読書活動はスマホから離れて活字読み考える楽しさを生徒が感じる時間としてとても有効だと考える。	B
		・朝学活終了後、朝読書を行う。また、図書委員会を中心に、読書啓発を行う。 ・社会科を中心に NIE を実施する。	年間読書の冊数を平均３冊以上 新聞投稿者が前年度以上						
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組 【中期】特別な支援を要する生徒への対応 【短期】あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・年３回いじめに関するアンケートやいじめに関する授業の実施 ・SNS に関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。	生徒、保護者によるアンケートで安心して登校できるが９０%以上	99%	A	・年３回のいじめアンケートや担任を中心とする見守り等の取組の効果が出て、生徒・保護者とも安全・安心に学校生活を送ることができると感じている。 ・ＳＮＳを通したいじめなどの問題を、セーフティ教室等の授業で注意・喚起するなど、生徒の「いじめ防止」の意識を高めることができている。	・今後もいじめアンケートを定期的に実施する。こまめに二者面談を行うなどして、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し組織的に迅速・的確に対応する。 ・教員の人権意識向上と「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続して実施し、教員の意識向上を図る。	いじめ撲滅に向けて様々な取組に挑戦しているところは、評価できます。現場を発見するための巡回は必須だと思う。発見後の傾聴はもっとも気を付けないといけないから初動だと考える。	A
		・SC、ＳＳＷ等と協働し、教育相談を充実させる ・サポート教室の充実とチャレンジクラスの開室、充実を図り、不登校を減少させる	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が８０%以上 不登校出現率が前年度以下	100%	A	・SOSの出し方授業やSCによるストレスマネジメント授業を行うことにより「安心して過ごせる学校」への肯定的な割合が生徒・保護者共に 89%であった。 ・SC、SSW、サポート教室、チャレンジクラス担任を含めた教育相談委員会を週１回実施し、配慮が必要な生徒の情報を共有し、対策を講じている。 ・自らすすんであいさつをするという生徒の割合が前年度よりも高くなっている。	・SOS の出し方授業を年３回実施し、必要に応じて二者面談等を実施する。また、家庭・地域と連携し、不登校出現率を減少させる。 ・今後も教育相談委員会を軸とし、配慮が必要な生徒への手立てを共有化していく。 ・生徒会や委員会活動を活性化させ、あいさつやマナーについて生徒に考えさせる指導を継続して行う。	生徒が安心して登校できる学校だと感じている割合が高く評価できる。	A
		・市の礼儀読本等を活用し、礼儀やマナーを身に付けさせる。	学校評価アンケートで肯定的な回答が８０%以上						
健やかな体の育成	【中期】基礎体力の向上を図る 【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピックの実施。 ・市の駅伝大会等への参加。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	137%	A	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において総合評価 C 以上の生徒の割合が 82.7%と同一集団（中１時）と比較しても 12.7%増加した。 ・市の駅伝競走大会に本校より３チーム出場した。	・今後も保健体育科の授業における基礎体力づくりやミニオリンピックの取組を継続していく。 ・今後も市の駅伝競走大会にも積極的に参加していく。	各種のスポーツを通じて体力の向上を図ってほしい。運動会やミニオリンピック等を行なうとともに、市の駅伝競走大会にも積極的に参加しいる。	A
		・「弁当の日」や「食育の日」を実施し、食育を推進する。 ・昼の放送による食材等の紹介	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が８０%以上	110%	A	・「弁当の日」で生徒は弁当づくりに積極的になり、食育講演会を実施することで、生徒の食に対する意識と理解が深まった。 ・「食育講演会」で成長期の体づくりをテーマに成長期に必要な食事の知識を身に付けさせることで、生徒の意識が高まった。 ・昼の放送での食材の紹介や、食材の動画等を放送し、給食への関心を高めた。	・次年度も食育に対する学習も行うことでより一層の理解を深めるようにする。 ・給食の残食減少をテーマにし、生徒会や給食委員会を活性化させる。	伝統的に「食育の日や弁当の日」が実施されてよく取り組みができている。また、三中の様々な事業で、積極的に地域の方々の参加を促していて、地域に開かれた学校に取り組んでいる様子が伺える。	B
まちづくり学習の充実	【中期】全学年でゼロカーボン学習を推進し、環境保全の意識を高め、実践する。 【短期】市内・保護者・地域へ取組を周知する	・各学年行事でゼロカーボン学習の取組を行う。（１年：川越体験学習、２年：東京体験学習、３年：修学旅行等） ・長期休業日を生かし、全学年でＣＯ２削減の取組を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	117%	A	・まちづくり学習として「ゼロカーボン学習」を行っていることが生徒、保護者、地域に浸透してきた。 ・学年による系統的な指導や教科横断的な指導の工夫が必要である。	・ゼロカーボン学習を学校だけでなく、地域とも連携しながら推進していく。 ・系統的な指導や教科横断的な指導の工夫について研究・ＩＴ委員会を中心にまとめていく。	ゼロカーボンシティチャレンジ校として、様々な取組を実施しており、環境問題に対する理解が深まっている。	A
		・学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が８０%以上	106%	A	・Ｘで学校での活動等を発信した。また、校支援アプリ等で学級だよりや学年だより等を発信できた。	・今後もホームページやＸ、校支援アプリ等を活用し学校の情報を発信していく。また、地域との協働活動により学校の取組を周知していく。	活動内容の配信を工夫したら魅力がもっと出ると考える	B
学校裁量	【短期】小中一貫教育の推進	・校区合同研修会を年間２回開催し、２学期に研究授業と協議会を実施。 ・「ふれあいフェスティバル」を実施し、地域と児童・生徒の交流を図る。また、キャリア教育交流、委員会連携の実施。	教員、生徒アンケートで肯定的な回答が９０%以上	60%	B	・校区合同研修会を実施し、校区の課題について　て意見交換を行った。また、小中９年間を通しての指導方法等についても協議できた。 ・「ふれあいフェスティバル」を２年ぶりに実施し、地域と児童・生徒の交流が図れた。 ・小中連携について生徒や保護者アンケートでは肯定的な回答が多かったが、教員アンケートでは実施について検討する必要がある意見も多かった。 ・各種検定を第３学年までに４割を超える生徒が取得した。また、各種コンクールについて 80%以上の生徒が応募した。	・今後も校区での研修会を実施し、小中９年間を見通した指導方法の改善を図っていく。 ・「ふれあいフェスティバル」の実施方法や委員会連携等の在り方については教育的効果も含めて検証し、実施について検討していく。 ・今後も各種検定やコンクールに積極的にチャレンジさせていく。	三小、雷塚小との連携は、小学生にとっても、中学生にとっても見識が広がる良い取組である。学習が目に見える形で取組が徹底できるとよい。	A
	【中期】基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	・各種検定やコンクール等に自主的に取り組ませ、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の４０%以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の５０%以上が応募した。						

※　到達度＝　達成値／目標値

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第五中学校　　校長名：榎戸　千代子

【経営理念】
（１） 一人一人の生徒を大切にする
（２） 生徒の良さ、可能性を伸ばす
（３） 教師の持ち味を生かして勝負する

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】　堀内　一弘
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和６年　７月　４日（木）
第２回　　令和６年１１月　７日（木）
第３回　　令和７年　２月１３日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和　年　月　日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全生徒に対しての基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図る	「学習の手引き」や「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	生徒アンケートにおいて、家庭学習に取り組んでいる生徒が75%以上	62.7	B	家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒は47%だった。以前より改善傾向にあるものの、まだ目標には届いていない。	教員の指導方法の改善を進め、家庭で取り組みやすい課題を設定する。その中で生徒が「できた」という感覚をもち、それを教師が認めることで生徒の意識を高める。	夏季講習の定例化等学校の取り組みの姿勢により、前向きにとらえている生徒が増えている。	B
		地域未来塾事業や都立武蔵村山高校の生徒の学習サポータを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に補充教室を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	100	A	国語は 50.6→51.8 と 0.8 ポイント上昇した。数学は 48.8→48.9 とほぼ横ばいの状態であった。２ 教科とも上回ってはいるものの、大きい改善にはつながらなかった。	教員の授業研修を継続して行う。また安易にレベルを下げるのではなく、生徒が「できた」と思えるような課題設定を工夫して行う。	夏休みの学習サポーター事業で高校生としっかり学習できていた。	A
豊かな心の育成	生命尊重や思いやりの心を育成し、仲間を大切にすることができる生徒を育てる	特色ある教育活動推進校として、生命尊重や思いやりの心の育成をテーマに講演会や授業を行う。	生徒、保護者アンケートにおいて生命尊重や思いやりの心が感じられたと答えた割合が75%以上	101.3	A	生命尊重、思いやりに関する設問では、肯定的な回答が 76%だった。目標とする数値に到達したものの、今後の改善の余地はまだあると考える。	今年度継続して取り組んでいる講演会、授業、朝礼の校長講話に加え、セーフティ教室でも「いじめ防止」をテーマに行い、生徒の成長をより促す。	地域の方とのふれあいや人権教育の授業によっていじめに対しての心構えができていると感じる。	A
		年 3 回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行う中で生徒が主体的にいじめ防止の取り組みを行うように推進する。	教員の自己評価や、生徒、保護者のアンケートの中でいじめ防止に取り組み、いじめがあったときは早期に対応しているという答えが75%以上	113.3	A	生徒 75%、保護 91%、教員 89%がいじめへの早期対応に対して肯定的な回答をしていた。目標は達成しているものの、生徒の結果はまだ改善の余地があると考える。	教員から生徒への声掛けを継続して行い、何時でも困っていることを相談できる環境づくりをし、教師が生徒を気にかけていることを伝える。	引き続きいじめ問題に関して優先的に取り組んでもらいたい。	A
健やかな体の育成	基本的生活習慣を見直し、高齢者、障害者理解を深め、身ともに健やかな生徒を育てる。	パラリンピアンなどを講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、高齢者疑似体験や交流を通して、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。	体験活動や交流活動を年間１回以上行う。	100	A	パラリンピアンとして車いすバスケの網本麻里選手を招いて車いす体験を行った。また、高齢者疑似体験を通じて、高齢者・障がい者理解が進んだ。	来年度も高齢者・障がい者理解学習を行い、それの経験をもとにアウトプット活動をしてまちづくり学習につなげる。	パラリンピックの意義を伝えてもらいたい。	B
		基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高めるために、歯科講話や歯磨きキャンペーン、給食の残食ゼロウィークに積極的に参加させる。運動会への取り組みを通して、自分自身の生活と、身の周りの運動との関わりを考えさせる。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。	100	A	男子は C 以上の割合が 19%→53.2%と飛躍的に向上している。女子は 73.2%→76%と微増であるものの高い基準を保っている。	基本的生活習慣を確立するキャンペーン、運動会への取り組み、球技大会などの学年行事を通して、自分自身の生活習慣と身の回りの運動との関わりを考えさせる。	自己の健康の大切さを実感させ、社会人となるべき人としての生活習慣を身に付けられていると思います。	B
まちづくり学習の充実	地域を知り、地域を大切にする心を育て、地域とともに生きていることを自覚し、自ら進んで地域に貢献できる生徒を育てる。	創設 11 年目を迎える五中レスキュー隊を中心に、北多摩西部消防署と連携し、地域防災訓練活動を行う。また、小学校や地域へのボランティア活動に積極的に参加させ、地域に貢献できる人材の育成を図る。	生徒、保護者、地域へのアンケートの中で、地域のことを意識して活動できているという生徒が75%以上	67.6	B	生徒 30%、保護者 85%、教員 88.8%が肯定的な回答をしていた。生徒は地域に積極的に貢献している生徒と、していない生徒の二極化がはっきりとしている現状である。	ボランティア活動の機会をより多く設定し、取り組みやすい環境を作り、参加を促すように啓発する。また、授業では取り組んでいるまちづくり学習が地域につながることを実感させる。	地域としても機会を増やす努力をしたい。	A
		地域を知り、地域を大切にする心を育て、地域社会に貢献する生徒を育成するため、地域について調べ、地域と連携した、五中フェスティバルや職場体験、プロから学ぶ会を開催する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０%以上	121.4%	A	この設問に回答した保護者の 85%が肯定的な回答をしている一方、「わからない」と回答した保護者が多かった。保護者が学校の取り組みに関心をもてるようにすることが今後の課題である。	学校だより、Ｘを使い情報発信をするとともに、生徒が主体的にまちづくり学習に取り組む機会を設定し、学校の様子を家庭で伝えられるようにする。	防犯パトロールの継続はとても良い。 五中フェスティバルを通して地域のとのつながりを実感できている。	A
学校裁量	自他の生命を尊重し、他の思いやる心を育てるとともに、自ら考え、共に学び、積極的に社会に貢献する態度を養う。	特別の教科　道徳の授業を通じて、全学年重点項目である「B(6)思いやり、感謝」と「D(19)生命の尊さ」に係る授業を学期に １ 回以上行い、自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。	生徒の道徳振り返りワークシートにおいて、授業の内容を深く考えることができたと答える生徒が75%以上	103.2	A	１年 77.5%、２年 78.3%、３年 76.6%の生徒が授業の内容を深く考えることができたと回答した。研修のテーマでもある「あいさつ」「思いやり」「生命尊重」の心は生徒に根付いていると考えられる。	特色ある教育活動推進校として、来年度の研究発表に向けて、講演会、授業などの取り組みを通じて、「あいさつ」「思いやり」「生命尊重」の心を育てる教育を継続する。	お年寄り、障害者との接点を多くすることで、生命尊重、思いやりの心を継続して育ててほしい。	B

※　到達度＝　達成値／目標値

資料６

令和７年３月２１日

武蔵村山市教育委員会　　殿

武蔵村山市立小学校特別支援学級
開設準備委員会

武蔵村山市立小学校特別支援学級開設準備
委員会の検討結果について（報告）

標題のことにつきまして、所掌する事項の検討結果を同委員会設置要領第２条の規定に基づき、別添のとおり報告します。

【報告書】

武蔵村山市立小学校特別支援学級開設準備
委員会の検討結果について

１　開設計画の策定に関すること

本市立小学校特別支援学級開設準備委員会では、障害のある生徒に対する支援の実態について理解を深めるため、新設校（第十小学校）の実態調査等を含め、学校を始め関係機関と連携して令和７年４月１日の開級に向けたスケジュールを資料１のとおり決定した。

２　指導体制の整備に関すること

まず、教育課程について、知的障害は、知的障害の教育課程に準じ、自閉症・情緒障害は、基本的に通常学級の教育課程に沿いながら、障害の特性に応じた特別な教育的支援を推進することを基本とした上で、第一小学校特別支援学級で使用している教育課程を参考に作成し、検討を行った。

【主な意見】

- 知的障害及び自閉症・情緒障害の特別支援学級における教育課程で示す配分の中で一番大事なのは、自立活動であり、自立活動の中で、障害種別や特性、程度に応じた教育をしていくことが望ましい。
- 国語、算数等を指導していく中で難しい課題がある各児童に対して、色々な手立てを講じながら授業を進めることが自立活動と理解している。
- 希望している児童の中には、通常学級からの就学・転学だけでなく、第一小学校及び雷塚小学校の特別支援学級からの転学を考えている児童もいるため、第十小学校が考える学校の特色等を含めて考えられると良い。
- 教育課程が学校によってガラッと変わるというのは、児童にとっては大きな戸惑いになる。教育課程の連続性と、教育指導内容、方法の継続性等児童にとってより良い状況であることが重要である。

３　施設の整備に関すること

施設の整備に関して、市教育委員会から学校の希望・意見を聴取（令和６年１０月２日）し、次に掲げる２項目を整備する。

⑴　教室照明のＬＥＤ化

令和６年度に３教室にある既存の蛍光灯を撤去し、ＬＥＤタイプの照明器具の設置を完了しており、それ以外の教室については、令和７年度以降の撤去及び設置を予定している。

⑵　備品及び消耗品の購入

１２月（第５号）補正予算の承認を受け、書庫及び片袖机（備品）、回転椅子及びパーティション（消耗品）を購入する（３月上旬納品予定）。

４　広報活動に関すること

⑴　市民への周知について

●　市報令和６年３月１５日号にて、開設時期、開設予定を周知した。

●　市報及び教育むさしむらやま令和７年４月１日号において、開設学級及び就学相談について周知する予定である。

⑵　保護者・学校向け周知について

就学・転学手続き用の保護者向けリーフレット（令和６年３月１５日発行）配布した。

５　指導の開始・終了の判定に関すること

特別支援学級の位置付け及び就学・転学手続き関係の流れを協議・決定（令和５年７月２１日）した。

⑴　学級の位置付け

知的障害及び自閉症・情緒障害特別支援学級の対象となる児童・生徒については、文部科学省通知第７５６号によること等を確認した。

⑵　就学・転学手続き関係の流れ

●　就学・転学の可能性のある児童・生徒への巡回相談の実施や校内委員会での検討時期は、令和６年５月までとした。

●　就学・転学相談の受付開始を令和６年３月１８日、就学・転学相談締切を令和６年７月１９日とし、就学支援委員会を９月２０日までを締切とした。

●　就学支援委員会（令和６年５月１７日）において、行動観察の実施方法を確認の上、決定した。

●　第２回就学支援委員会（令和６年９月１３日）において自閉症・情緒障害１名、第３回就学支援委員会（令和６年９月２０日）において知的障害５名及び自閉症・情緒障害６名、第８回就学支援委員会（令和６年１２月２０日）において知的障害２名、計１４名を審議・決定した。

第一小学校及び雷塚小学校の知的障害特別支援学級から各１名ずつ転学することとなり、知的障害９名及び自閉症・情緒障害７名となった。

６　その他開設に関すること

学級の愛称について、第十小学校から腹案が提案され、知的障害を「めじろ」、自閉症・情緒障害を「つばめ」に決定した（令和６年１０月２８日）。

第十小学校特別支援学級開設に向けてのスケジュール

【資料１】

項目等	令和５年度									令和６年度（予定）										令和７年度	
	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	４月	５月
会議関係	・**開設準備委員会①** ・委員長・副委員長選任 ・年間計画他 ・就学支援委員会②	・連携協議会①	・就学支援委員会③④	・校長会報告 ・就学支援委員会⑤	・**開設準備委員会②** ・就学・転学手続 ・学区検討 ・リーフレット原案 ・就学支援委員会⑥	・就学支援委員会⑦	・就学支援委員会	・**開設準備委員会③** ・リーフレット検討 ・連携協議会② ・専門委員会②		・校長会報告	・就学支援委員会（審議なし）	・専門委員会①	・**開設準備委員会④**	・連携協議会①	・校長会報告 ・就学支援委員会②③ （新設学級審議締切）	・学校公開週間に合わせて施設見学	・就学支援委員会④⑤ ・**学級編成・教育課程他** ・就学支援委員会⑥⑦ （特別支援学級締切）	・教育課程編成説明会 ・就学支援委員会⑧ （最終回次年度就学児のみ）	（・就学支援委員会⑨	（開設準備委員会⑥） ・児童数他 ・専門委員会② ・連携協議会②）		・**開級式（校内）** ・**指導開始**	
学校関係		・次年度使用教室の確保							・教員向け説明資料の配布	・新任、転任教員向け説明資料の配布					・次年度予算要求（賃貸借等）	・就学時健診始		・次年度予算確定	・教員向け研修	・教育課程の提出 ・就学児保護者会（２月又は３月に特別支援学級希望者と転学者向けの別途説明会）	・指導準備 ・開級式案内送付		
就学・転学関係			・就学・転学相談申込受付開始										・新設学級就学転学相談締切										
施設関係		・予定教室について視察													・次年度予算要求（簡易工事）			・次年度予算確定	・簡易工事入札準備	・簡易工事 ・契約簡易工事			
教育委員会事務局	・要領制定	・教育委員会への説明（開設校について）				・教育委員会へ報告	・１／１５市報掲載		・開設周知リーフレットの配布（小一～四年生）	・保護者説明会案内配布	・保護者説明会（市役所）					・次年度予算要求（消耗品備品）			・新一年生就学通知書発送（予定） ・教育むさしむらやま掲載 ・備品契約		・教育委員会へ報告			
東京都関係												・学級編成調査書類提出						・学級編成調査			・学級編成調査書類提出		